

ハイブリッド IP トランシーバー
IP700S シリーズ

はじめに

1 ご使用の前に

2 LTEモードでの操作

3 SRモードでの操作

4 デュアルモードでの操作

5 共通機能

6 各種機能の設定 (SETモード)

7 別売品とその使いかた

8 ご参考に

本製品をご使用の際には、総務省の無線局の免許が必要です。免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IP無線機に一般業務用無線機(SR)を搭載したハイブリッド無線機です。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の特長

- ◎IP無線機(LTE)に一般業務用無線機(SR)を搭載したハイブリッド無線機
- ◎LTE(ドコモ網/au網)、SR(一般業務用無線)、デュアルモードに対応
- ◎デュアルSIMに対応
- ◎SRモードは、デジタルとアナログの両通信方式に対応
デジタル通信用の選択呼び出し機能に加え、アナログ通信用の個別呼び出しに対応
- ◎Bluetooth接続に対応(Bluetooth機能搭載バージョン限定)
- ◎IP67/IP55/IP54*の防塵/防水性能
- ★「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。

取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「ご使用になる前に」と「ご利用ガイド」(別紙)、弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」(PDFファイル)で構成されています。

ご使用になる前に/ご利用ガイド(別紙)

はじめて本製品をお使いになる前に、知っておいていただきたい安全上のご注意や本製品の基本的な操作方法などについて記載しています。

取扱説明書(本書)

各種機能の詳細や使用方法について記載しています。

※本書に記載されている内容は、2023年4月時点の情報です。最新の情報は、ウェブサイトでご確認ください。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

※本書は、Ver.1.2.08のファームウェアを使用して説明しています。

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

付属品

- ◎ベルトクリップ(MB-133)
- ◎バッテリーパック(BP-303)
- ◎保護カバー
- ◎ネジ(保護カバー用)
- ◎ご使用になる前に
- ◎ご利用ガイド
- ◎保証書

※お使いになる製品によっては、バッテリーパックが同梱されていない場合がありますが、別売品としてもご用意しています。

使用後はリサイクルへ



この製品は充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <https://www.jbrc.com/>

登録商標/著作権について

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

防塵/防水性能

バッテリーパック、アンテナ、保護カバーを本製品に正しく取り付けた状態で、IP67/IP55/IP54の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分間以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の使用による防塵/防水性能」に記載する別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷した状態で使用したとき
- -20°C ～ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の使用による防塵/防水性能

バッテリーパック、アンテナ、防水形スピーカーマイクロホンを無線機本体に装着することで、IP67/IP55/IP54の防塵/防水性能になります。

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字の部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

- IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を 1m^3 あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取出して、無線機として機能すること
- IP6X(耐塵形) : 試験用粉塵を 1m^3 あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取出して、無線機内部に粉塵の侵入がないこと
- IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと
- IPX5(防噴流形) : 注水ノズル(内径6.3mm)をすべての方向に使用して、3mの距離から、1分間 1m^2 あたり約12.5リットルの水を3分以上注水後、無線機として正常に機能すること
- IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取出して、無線機として機能すること
- IPX8(水中形) : 水深1.5mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取出して、機器として機能すること

はじめに

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※バッテリーパック、アンテナ、保護カバーを無線機に正しく取り付けられた状態で洗浄してください。

※常温の真水でやさしく洗い流してください。

※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

- ・無線機本体、保護カバーが破損している場合
- ・落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

電波干渉についてのご注意

Bluetoothの通信では2.4GHz帯の電波を使用するため、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。

◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、使用場所を変更するか、Bluetoothのご使用をお控えください。

◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンター(P.8-4)へお問い合わせください。

2.4GHz現品表示記号の意味について

「2.4」：2.4GHz帯を使用する無線設備

「FH」：FHSS方式

「1」：想定干渉距離が10m以下

「—」：全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可

2.4FH1

電波法についてのご注意

◎本製品は、電波法/電気通信事業法に基づいて、設計認証を受けた製品です。その証として、技適マークが本製品の認証画面(SETモード(基本)>認証>[FUNC])と、シリアルシールに表示されています。分解や改造をしないでください。

◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。そのため、ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。アンテナを加工して使用したり、弊社指定以外のアンテナを使用したりすると、電波法違反で罰せられる場合がありますので、ご注意ください。

IP無線機としてご使用になる場合

◎使用できるのは、日本国内に限られています。本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用しないでください。

一般業務用無線機としてご使用になる場合

◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。

◎免許の有効期間は、免許取得日から数えて5年間です。再免許の申請は、有効期間満了の6カ月前から3カ月前のあいだに手続きをしてください。

◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎使用できるのは、日本国内に限られています。

はじめに

医用電気機器近くでの取り扱いについて

植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器や医用電気機器の近くで本製品を使用する場合は、電波によりそれらの装置・機器に影響を与えるおそれがありますので、次のことをお守りください。

◎植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着されている方は、本製品を植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器の装着部位から15cm以上離して携行、および使用してください。電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

◎身動きが自由に取れない状況など、15cm以上の離隔距離が確保できないおそれがある場合、付近に植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、本製品を使用しないでください。電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

◎医療機関の屋内では次のことに注意してご使用ください。

- 手術室、集中治療室(ICU)、冠状動脈疾患監視病室(CCU)には本製品を持ち込まないでください。
- 病棟内では、本製品を使用しないでください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は本製品を使用しないでください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示にしたがってください。

◎医療機関の外で、植え込み型心臓ペースメーカー、および植え込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合(自宅療養など)は、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により機器の作動に影響を与える場合があります。

本製品の比吸収率(SAR)について

本製品は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準に適合しています。この技術基準は、携帯型端末などの無線機器から送出される電波が人間の健康に影響を及ぼさないよう、科学的根拠に基づいて定められたものであり、人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)について、これが 2W/kg^* の許容値を超えないこととしています。この許容値は、使用者の年齢や身体の大きさに関係なく十分な安全率を含んでおり、世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が示した国際的なガイドラインと同じ値になっています。

本製品の値は $1.436\text{W/kg}(10\text{g})$ です。この値は、国が定めた方法に従い、携帯型端末の送信電力を最大にして測定された最大の値です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。また、本製品は、基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ

<https://www.tele.soumu.go.jp/j/ele/index.htm>

社団法人電波産業会のホームページ

<https://www.arib-emf.org/index.html>

★技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)で規定されています。

はじめに

日常のお手入れと点検

- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
また、バッテリーパックを取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎無線機本体、充電器、バッテリーパックなどの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。各端子は、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎使用される前に、バッテリーパックの容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。
また、バッテリーパックがしっかりと装着されているか点検してください。

取り扱い上のご注意

- ◎SIMカードの交換は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎磁気カードを無線機に近づけないでください。磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎IP無線機としてご使用になる場合、サービスエリア内でも電波の届かない場所(トンネル・地下など)では通信できません。また、電波状態の悪い場所では通信できないこともあります。なお、通信中に電波状態の悪い場所へ移動すると、通信が途切れることがありますので、あらかじめご了承ください。

◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター回路内蔵のおもな電子機器】

- ◎LED照明器具
- ◎電磁調理器
- ◎給湯器
- ◎自動車に搭載された電子機器
- ◎太陽光発電装置

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #8,595,002, #8,359,197, #8,315,860, #8,200,497, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

はじめに

気圧調整口(エアイベント)について

下図の位置に気圧調整口(エアイベント)があり、この下にある空気を通す素材のシートによって、気圧を調整しています。

※ほかのシールを貼るなどしてふさぐと、気圧調整ができなくなり、運用してしばらくすると、内蔵スピーカーからの音量が小さくなる現象が発生することがあります。

また、防水性能が維持できなくなる場合があります。

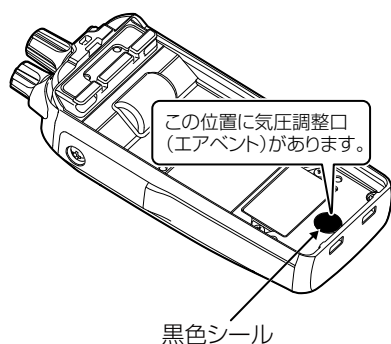
※黒色シールに傷がつくと、防水性能が維持できなくなる場合があります。

ファームウェアの自動更新について

本製品は、自動的にファームウェアが更新されることがありますので、あらかじめご了承ください。

※更新中は、本製品をご利用いただけませんのでご注意ください。(P.1-5)

無線機本体



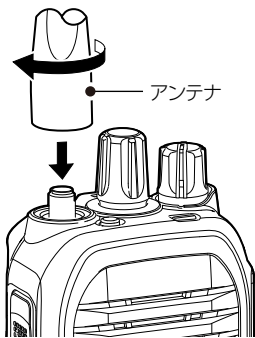
バッテリーパック



■ アンテナの取り付け	1-2
■ ベルトクリップの取り付けかた	1-2
■ バッテリーパックの取り付けと取りはずし	1-2
■ スピーカー・マイクロホンなどの接続	1-3
■ 各部の名称	1-3
■ 電源の入れかた	1-3
■ 音量調整のしかた	1-3
■ 運用モードの切り替え	1-4
■ 表示部	1-5

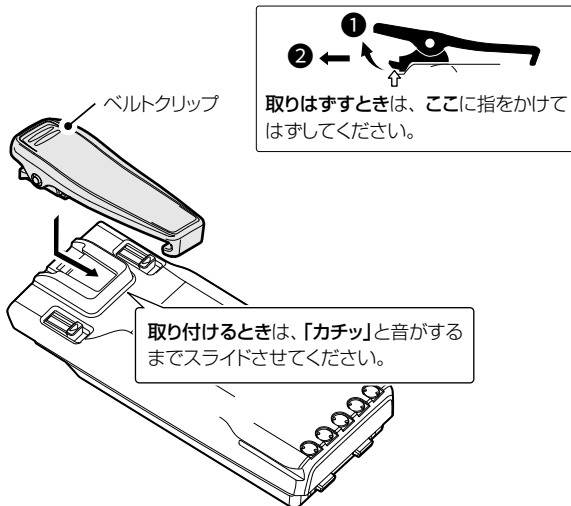
1 ご使用の前に

■ アンテナの取り付け



■ ベルトクリップの取り付けかた

バッテリーパック単体の状態で、ベルトクリップを着脱してください。

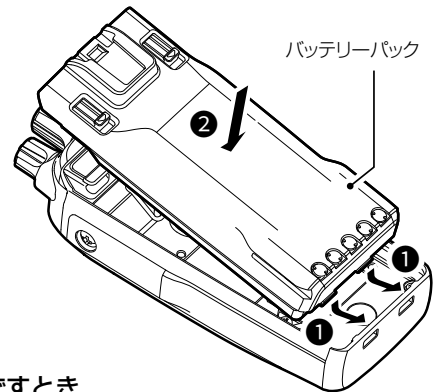


■ バッテリーパックの取り付けと取りはずし

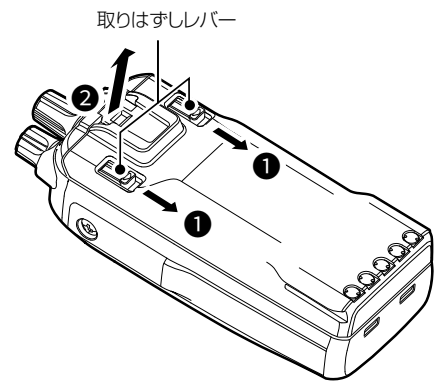
本体の電源を切った状態で、バッテリーパックを着脱してください。

※お買い上げいただいたときや2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してからご使用ください。(P.7-3)

取り付けるとき



取りはずすとき



△注意

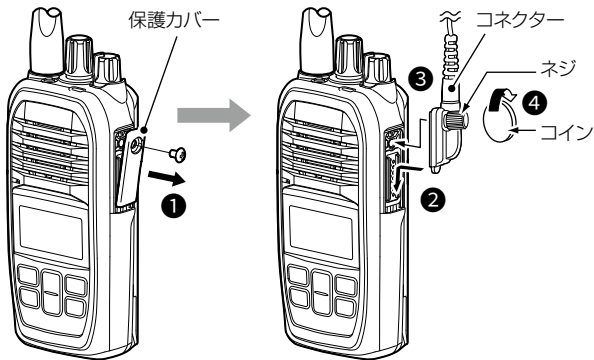
しばらく使用しないときは、バッテリーパックを本製品から必ず取りはずしてください。

本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、電池が消耗する原因になります。

1 ご使用の前に

■ スピーカー・マイクロホンなどの接続

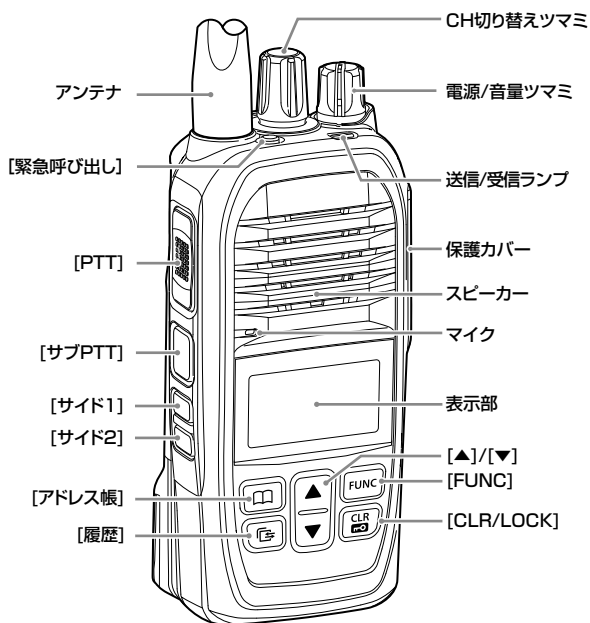
無線機の電源を切ってから、図のように保護カバーを取りはずし、別売品のコネクターを接続してください。
※防水性能の維持と端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。



△注意

ネジがゆるまない程度の適切な力で締めてください。
強く締めすぎると、コネクターや機器の破損につながります。

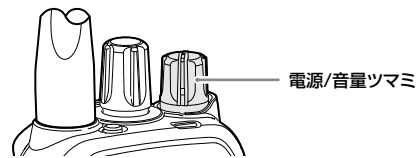
■ 各部の名称



■ 電源の入れかた

電源/音量ツマミを時計方向に、12時の位置まで回します。

- 「カチッ」と音がして、「ピー」と鳴ります。
- 起動が完了すると、待受画面が表示されます。



電源を切るときは

電源/音量ツマミを反時計方向に「カチッ」と音がするまで回します。

※電源を切ったあと、少しのあいだ通電状態になりますので、電源を入れなおすときは、電源を切ってから10秒ほどお待ちください。

※バッテリーパックを交換するときは、「電源OFF…」の表示が消えたことを確認してから、バッテリーパックを取りはずしてください。

起動パスワードの入力

「パスワード？」と表示されるときは、パスワードの入力が必要です。

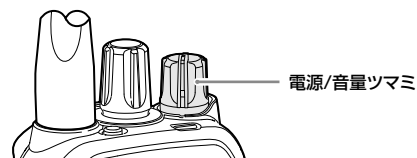
あらかじめ設定された順番どおりに、無線機本体のスイッチを押すと、パスワードが解除されます。

■ 音量調整のしかた

電源/音量ツマミを回すと、音量が調整できます。

※調整できる範囲は、「0～32」です。相手の音声が聞きやすい音量レベルに調整してください。

※音量が最小のときは、操作音（ピープ音）や受信した音声が聞こえません。



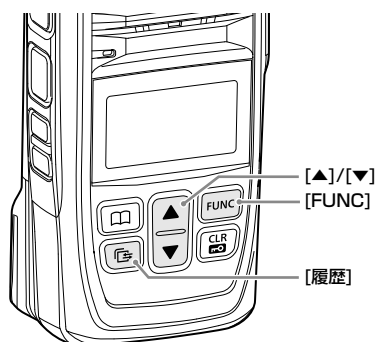
1 ご使用の前に

■運用モードの切り替え

状況に応じて、運用モードを変更できます。

※各モードでの操作については、2-2 ページ、3-2 ページ、4-2 ページをご覧ください。

1. [FUNC]を押して、「モード切替」を選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、モードを選択します。
3. [履歴]を押します。
 - 選択したモードに切り替わります。



1 ご使用の前に

■表示部

運用モードにより表示されるアイコンが異なります。

※お買い上げの販売店で「自局名」が設定されていない場合は、LTEモード時、5桁の自局番号(例：00105)が表示されます。



LTEモード時



SRモード時

LTEモード

	電波の強度を3段階(目安)で表示 ※キャリア表示設定時は、D(ドコモ網)やK(au網)が表示されます。
	点滅：サービスエリア外(電波の届かない地域)の場合(圏外) 点灯：IP無線コントローラーに繋がっていないとき(未レジスト)
	全体/グループ呼び出し
	トークグループ呼び出し
	個別呼び出し時
	電話(発信/着信)
	ポケットビープ機能設定時
	Pベル機能表示
	点滅：GPS測位中(GPS情報が通知できていない状態) 点灯：GPS測位完了(GPS情報が通知できている状態) ※お買い上げの販売店で設定されている場合に表示されます。

SRモード

	電波の強度を4段階(目安)で表示 ※↑は、待ち受け時や送信時、受信電波の強さが著しく弱いときの表示です。
	グループメンバーに設定されているグループ番号
	全体/グループ呼び出し
	個別呼び出し時
	秘話機能設定時
	ハイパワー(5W)選択時
	ローパワー(1W)選択時
	受信専用チャンネル選択時
	スキャン中

LTE/SRモード

	点滅：録音中/未確認録音データあり、点灯：録音機能設定時
	Bluetooth機能設定時(Bluetooth機能搭載バージョン限定)
	Bluetooth機器と接続中(Bluetooth機能搭載バージョン限定)
	ロック機能動作中
	VOX機能設定時
	緊急呼び出し機能設定時
	電池の残量(目安)を4段階で表示 十分、 残量あり、 残量少(早めに充電)、 残量なし(要充電)

「F」が表示されたときは

「F」表示が点滅しているときは、新しいファームウェアをダウンロード中です。



◎ダウンロードは約10分かかります。そのまま電源を切らず、電波状況のよい環境でお待ちください。ダウンロードが完了すると、自動的に再起動します。

◎「F」表示の点灯がつづく場合は、ご都合のよいときに、電源を入れなおして再起動してください。

◎電池残量が十分あることを確認してください。

(残量あり)の状態になるまで充電してから、電源を入れなおし、再度ダウンロードしてください。

■ 基本操作	2-2
◇ 運用モードの切り替え	2-2
◇ 各キーの使いかた	2-2
◇ 通話のしかた	2-3
◇ アドレス帳の使いかた	2-4
◇ 履歴の使いかた	2-5
◇ 履歴をすべて消去するときは	2-6
■ 応用操作	2-7
◇ トークグループ呼び出しについて	2-7
◇ トークグループを選択するときは	2-8
◇ メッセージを送信するときは	2-9
◇ 受信したメッセージを確認するとき	2-10
◇ プレゼンスを送信するときは	2-11
◇ ポケットビープ機能について	2-12
◇ Pベル機能について	2-12
◇ 遠隔送信機能について	2-13
◇ 遠隔送信を要求するときは	2-14
◇ SIMカードの切り替えについて	2-15
◇ SIMカードをSETモードで切り替えるときは	2-15
◇ SIMカードを[FUNC]で切り替えるときは	2-16
◇ 本製品から電話を切りたいときは	2-17
◇ 緊急速報機能について	2-17

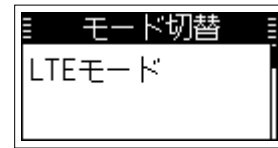
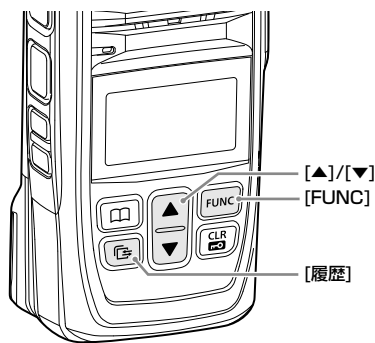
2 LTEモードでの操作

■基本操作

◇運用モードの切り替え

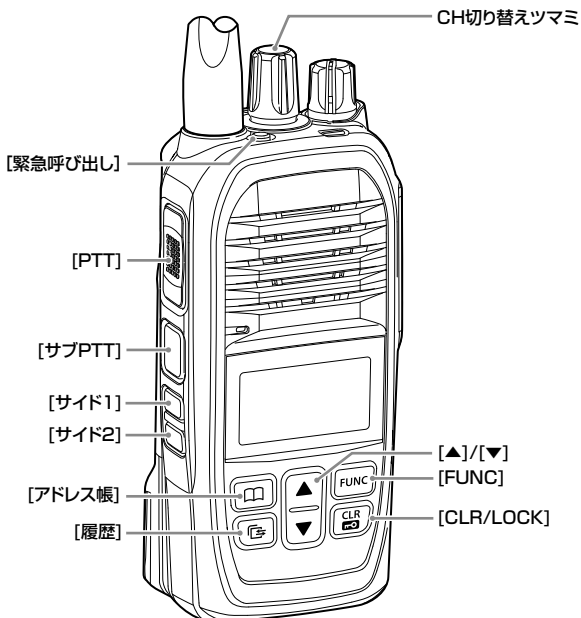
LTEモードでは、弊社製IP無線機と通話できます。

1. [FUNC]を押して、「モード切替」を選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、「LTEモード」を選択します。
3. [履歴]を押します。
• 選択したモードに切り替わります。



LTEモード選択時

◇各キーの使いかた



[PTT]	キーを押しているあいだ、送信状態になります。
[アドレス帳]	アドレス帳を利用して、送信するときに操作します。キーを押すごとに、呼出種別(全体/グループ(トークグループ)/個別/電話)が切り替わります。 ※アドレス帳が無効になっている場合は、待受画面(下部)に表示された特定の呼出種別(呼出先)を呼び出せます。
[履歴]	短押し キーを短く押すごとに、履歴が切り替わります。 長押し 録音を再生するときに操作します。
[FUNC]	自局名の表示、運用モードの切り替え、送信するメッセージやプレゼンス、所属するトークグループなどを選択するときに操作します。
[CLR/LOCK]	短押し メッセージや履歴などの選択画面から、待受画面に戻ります。 長押し ロック機能をON/OFFします。
[▲]/[▼]	アドレス帳や履歴画面内のカーソルを移動するために使用します。 ※CH切り替えツマミと[▲]/[▼]は同じ動作をします。

※上表に記載されている機能、[緊急呼び出し]、[サブPTT]、[サイド1]、[サイド2]は、お買い上げの販売店で設定されている場合に使用できます。

2 LTEモードでの操作

■基本操作

◇通話のしかた

1.呼び出しをする(送信する)

[PTT]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送信/受信ランプが赤色に点灯します。



全体呼び出し選択時

2.呼び出しを受ける(受信する)

信号を受信すると、送信/受信ランプが緑色に点灯します。

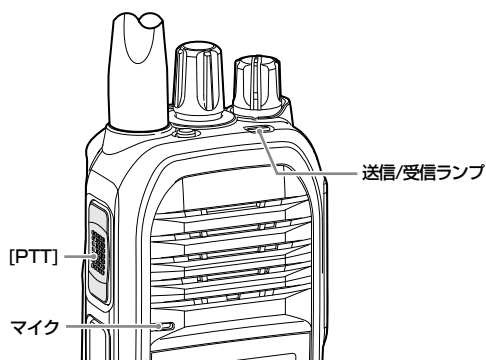


全体呼び出し受信時

3.通話をつづける

相手が送信しているときでも、[PTT]を押しながら、電話のよ
うに同時通話できます。

- 送受信状態(同時通話時)のときは、送信/受信ランプが黄色に点灯します。
- ※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。
- ※通話相手の音声がひずまないように、電源/音量ツマミを回して、音量を調整することをおすすめします。
- ※スピーカーやマイクに手をかざしたり、ふさいだりすると、十分な性能を発揮できませんので、ご注意ください。



ご注意

本製品の受話音量が最大近くに設定され、騒音環境や本製品同士を近づけていた状態で、同時通話をする
と、相手に周期的な残響ノイズが聞こえることがあります。

このようなときは、電源/音量ツマミを回して、音量を小さくすると、現象が発生しにくくなります。

交互通話(単信通話)の場合

お買い上げの販売店で単信通信が設定されている場合は、送信と受信を交互に切り替えて通話します。

※相手の通話が終了してから、送信してください。

マイクの使いかた

マイクに向かって話すときは、口元から約5cmはなし、普通
の大きさの声で通話してください。マイクを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにく
くなりますのでご注意ください。

連続送信について

[PTT]が押しつづけられる場合など、不用意な送信を防止す
るために、タイマーが設定されています。連続送信が5分を超え
ると、自動的に送信を停止しますので、通話を再開するには再
度[PTT]を押してください。

※連続送信時間を変更する場合は、お買い上げの販売店にご
依頼ください。

バイブレーション機能について

お買い上げの販売店、または本製品のSETモードの受信通知
設定でバイブレーション機能が設定されている場合は、振動
でも受信を確認できます。(P.6-7)

操作時の確認音について

お買い上げの販売店、または本製品のSETモードの設定によ
り、キーを操作したときに確認音が鳴ります。(P.6-4)

通知音について

お買い上げの販売店、または本製品のSETモードの設定によ
り、受信や圏外などを音で確認できます。(P.6-7)

バックライトについて

お買い上げの販売店、または本製品のSETモードの設定によ
り、バックライトは下記のように動作します。(P.6-5)

- ◎常時消灯 : バックライトが点灯しません。
- ◎常時点灯 : 常にバックライトが点灯します。
- ◎操作時点灯 : 新規着信時、または[PTT]以外を操作するとバックライトが点灯し、何も操作しない状態が約5秒つづくと、自動的に消灯します。

2 LTEモードでの操作

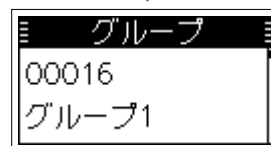
■基本操作

◇アドレス帳の使いかた

本製品で使用するアドレス帳は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

1.アドレス帳から相手先を選択する

1. [アドレス帳]を押して、呼出種別(例：グループ)を選択します。
※キーを押すごとに、全体⇒グループ(トークグループ*)⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。
★トークグループは、2-7ページをご覧ください。
2. [▲]/[▼]を押して、相手先(例：グループ1)を選択します。



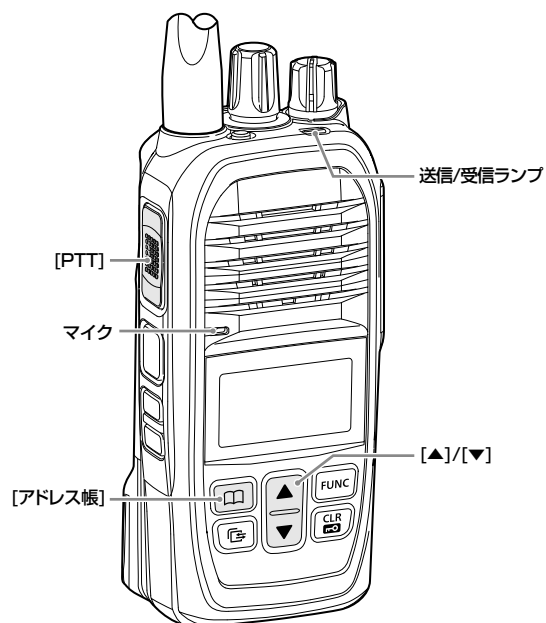
2.[PTT]を押す

[PTT]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送信/受信ランプが赤色に点灯します。



グループ呼び出し選択時



2 LTEモードでの操作

■基本操作

◇履歴の使いかた

履歴機能は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

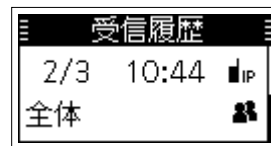
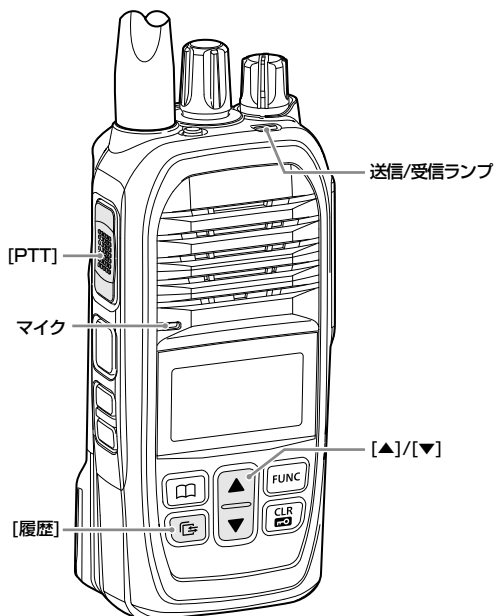
1.履歴から通話相手を選択する

1. [履歴]を押して、履歴(例：受信履歴)を選択します。
※キーを押すごとに、送信⇒受信⇒メッセージ送信⇒メッセージ受信⇒電話発信⇒電話着信⇒録音と、履歴が切り替わります。
2. [▲]/[▼]を押して、相手先(例：個別)を選択します。

2.[PTT]を押す

[PTT]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送信/受信ランプが赤色に点灯します。



個別呼び出し選択時

履歴について

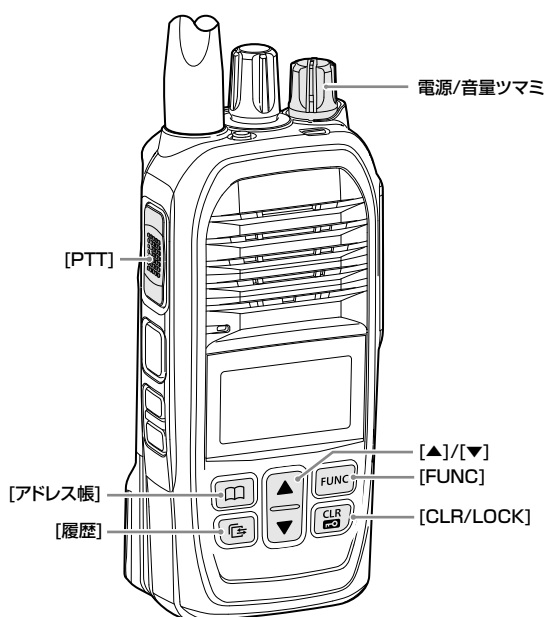
各履歴は10件まで記憶され、10件を超えると、古い履歴から自動的に消去されます。

2 LTEモードでの操作

■基本操作

◇履歴をすべて消去するときは

1. [FUNC]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
2. 「SET」が表示されたら、キーから手をはなします。
3. [▲]/[▼]で「共通」を選択し、[FUNC]を押します。
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
4. [アドレス帳]、または[FUNC]を押して、「履歴消去」を選択します。
5. [▲]/[▼]で「消去」を選択します。
6. [履歴]を押します。
 - 録音を除くすべての履歴が消去されます。



2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ トークグループ呼び出しについて

どのグループに所属するかを、端末側で選択できる機能です。同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。

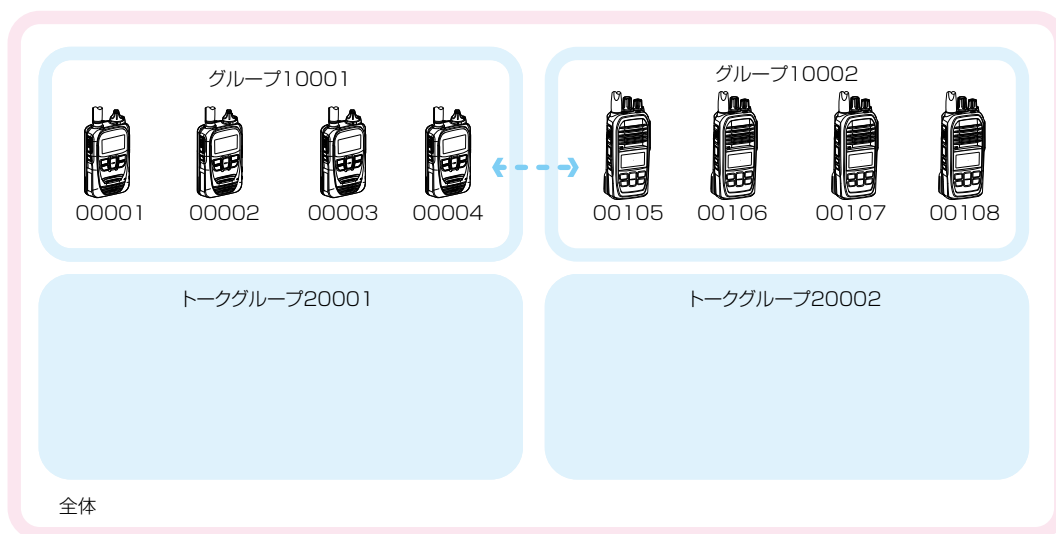
図のように、トークグループ(例：20001)を選択すると、その端末(例：00105)は通常のグループ(例：10002)からはずれます。

※お買い上げの販売店で、トークグループ番号が設定されている場合に使用できます。

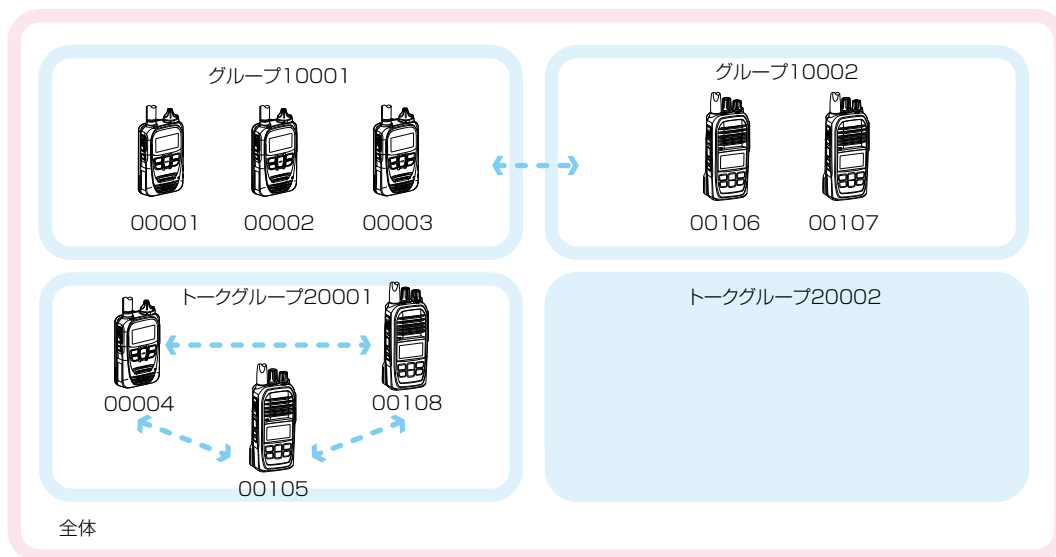
※トークグループの選択方法は、2-8ページをご覧ください。

※通常のグループ呼び出し、全体呼び出しの対象にトークグループを含めるかどうかなど、お買い上げの販売店にご依頼ください。

トークグループOFF時



トークグループ選択時



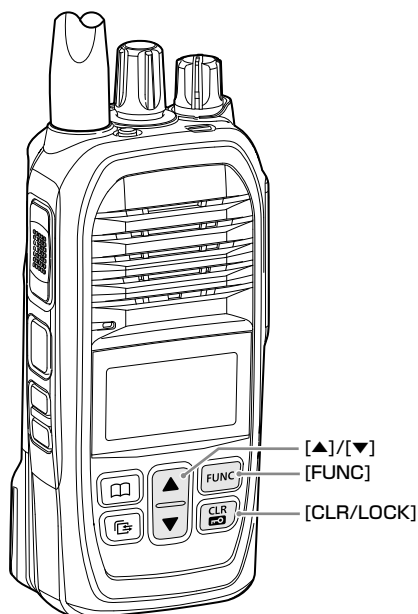
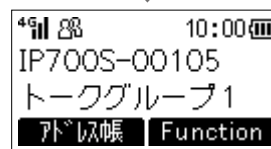
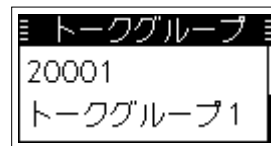
2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ トークグループを選択するときは

お買い上げの販売店で、トークグループ番号が設定されている場合に使用できます。

1. [FUNC]を押して、トークグループを選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、トークグループの番号を選択します。
3. [CLR/LOCK]を押します。
 - 同じグループ番号(例: 20001)を選択したほかの端末と通話できる状態になります。
 - ※トークグループ選択時、通常のグループ呼び出しは使用できません。(P.2-4)
 - ※トークグループを解除するときは、手順2でOFFを選択します。



2 LTEモードでの操作

■応用操作

◇メッセージを送信するときは

お買い上げの販売店で、メッセージの送信が設定されている場合に使用できます。

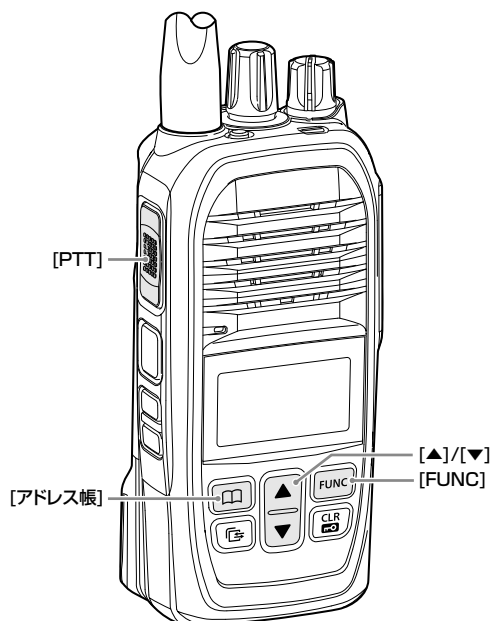
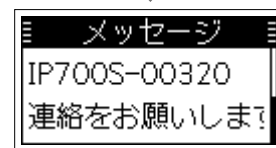
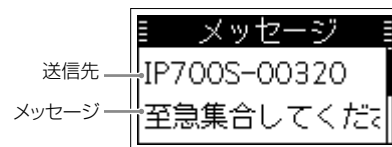
1.送信先を選択する

1. [アドレス帳]を押して、呼出種別(例：個別)を選択します。
※キーを押すごとに、全体⇒グループ(トークグループ*)⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。
★トークグループは、2-7ページをご覧ください。
2. [▲]/[▼]を押して、相手先を選択します。
※送信先は履歴からも選択できます。



2.メッセージを選択して送信する

1. [FUNC]を押して、メッセージを選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、送信するメッセージを選択します。
3. [PTT]を押します。



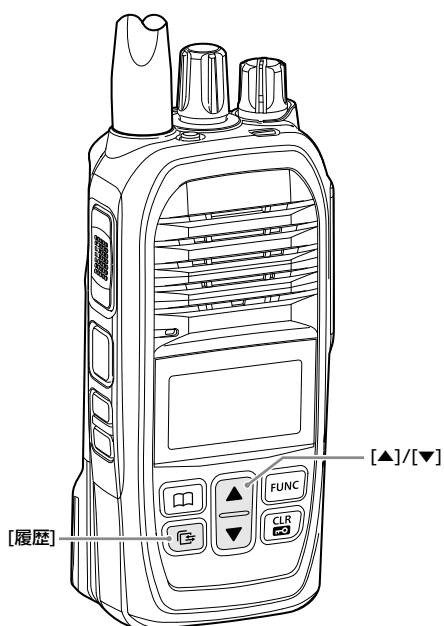
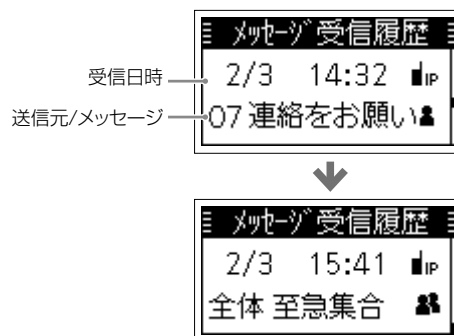
2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ 受信したメッセージを確認するとき

履歴機能は、お買い上げの販売店で設定が必要です。

1. [履歴]を押して、メッセージ受信履歴を選択します。
※キーを押すごとに、送信⇒受信⇒メッセージ送信⇒メッセージ受信⇒電話発信⇒電話着信⇒録音と、履歴が切り替わります。
2. [▲]/[▼]を押して、確認するメッセージを選択します。
※メッセージを受信していないときは、メッセージ受信履歴は表示されません。



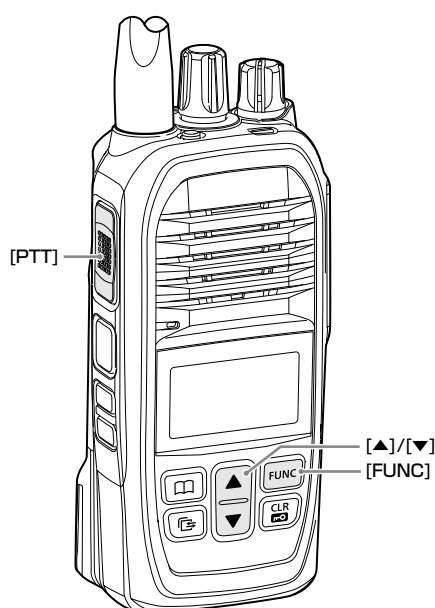
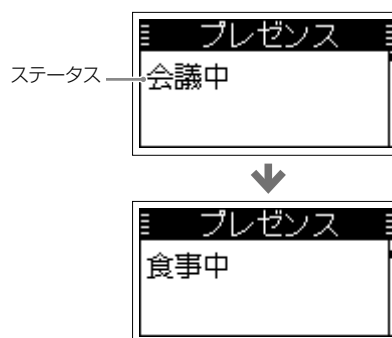
2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ プレゼンスを送信するときは

お買い上げの販売店で、送信するステータス(例：会議中/食事中)が設定されている場合に使用できます。

1. [FUNC]を押して、プレゼンスを選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、送信するステータスを選択します。
3. [PTT]を押します。



送信したプレゼンス情報を閲覧するには

端末の位置情報とプレゼンス情報を確認できるソフトウェアとして、PM-IP500(弊社ホームページからダウンロードできるフリーウェア)があります。

※別途、昭文社のスーパーマッブル・デジタル(地図ソフトウェア)が必要です。

※本製品の位置情報を表示できるのは、お買い上げ時に本製品のGPS機能が有効に設定されて、弊社製ゲートウェイユニット側で情報を取得できる場合だけです。

※詳しくは、弊社ホームページ掲載のPM-IP500ご利用ガイド(PDFファイル)をご覧ください。


2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ ポケットビープ機能について

呼び出しを受けたときに、受信通知音とアイコンの点滅でお知らせする機能です。

※お買い上げの販売店、または本製品のSETモード(P.6-7)で設定されている場合に使用できます。

受信通知音とポケットビープ機能が設定されている呼出種別があるときは、「」が点灯します。

その呼出種別で呼び出しを受けると、受信通知音とアイコンの点滅でお知らせします。



待受画面



待受画面




個別呼び出し受信時

◇ Pベル機能について

呼び出しを受けたときに、受信通知音でお知らせする機能です。応答するまで、相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※ [PTT] を押して応答すると、音声ミュートを解除し、相手の音声聞こえます。

※お買い上げの販売店、または本製品のSETモード(P.6-7)で設定されている場合に使用できます。

受信通知音とPベル機能が設定されている呼出種別があるときは、「」が点灯します。

その呼出種別で呼び出しを受けると、受信通知音でお知らせします。

2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

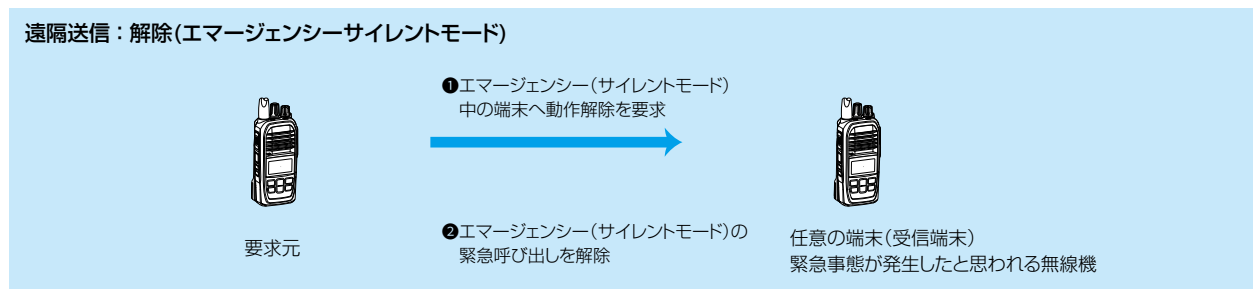
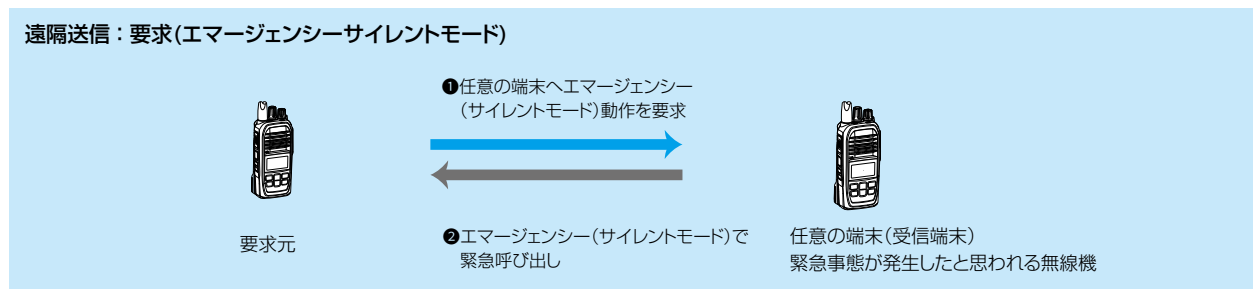
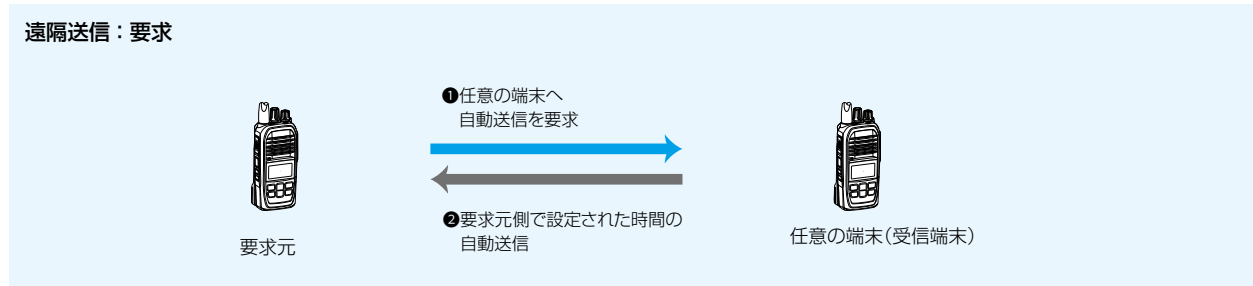
◇ 遠隔送信機能について

端末から別の端末に対して、自動送信を要求できる機能です。

※お買い上げの販売店で、遠隔送信機能(要求元/受信端末側)、緊急呼び出し機能(受信端末側)が設定されている場合に使用できます。

※エマージェンシーサイレントモード動作時、送信/受信ランプは点灯しません。

端末から別の端末に要求する動作モード



遠隔送信の要求を受信した端末の動作について

要求元から指定された内容にしたがって動作します。

※自動送信時のマイク入力、通常時とは別に設定されています。

◎要求：ビープ音が鳴り、自動送信を開始し、送信/受信ランプが赤色に点灯します。

※送信時間は、要求元で設定された時間にしがいます。

◎要求(エマージェンシーサイレントモード)

：エマージェンシーサイレントモードを開始します。

※呼び出し先は、要求元に送信します。

※緊急呼び出し機能の設定に関係なく、警告表示と警告音は動作しません。

※送信時間は、解除要求受信までか、自動解除の設定によります。

◎解除(エマージェンシーサイレントモード)

：エマージェンシーサイレントモードを解除します。

2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ 遠隔送信を要求するときは

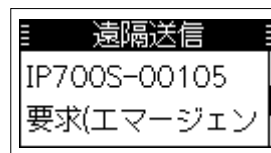
※お買い上げの販売店で、遠隔送信機能(要求元/受信端末側)、緊急呼び出し機能(受信端末側)が設定されている場合に使用できます。

1. 送信先を選択する

1. [アドレス帳]を押して、呼出種別「個別」を選択します。
※キーを押すごとに、全体⇒グループ(トークグループ)
⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。
2. [▲]/[▼]を押して、個別の相手先を選択します。
※送信先は履歴からも選択できます。

2. 要求する動作モードを選択して送信する

1. [FUNC]を押して、遠隔送信★を選択します。
2. [▲]/[▼]を押して、要求する動作モード(P.2-13)を選択します。
3. [PTT]を押します。
★[サブPTT]、[サイド1]、[サイド2]に「遠隔送信(エマージェンシーサイレントモード)」を設定している場合は、これらのキーでも、「要求(エマージェンシーサイレントモード)」を選択できます。(P.5-12)



要求(エマージェンシーサイレントモード)選択時

2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ SIMカードの切り替えについて

デュアルSIM対応の本製品にはSIMスロットが2つあり、初期設定ではSIM1側のSIMカードを使用して、回線に接続します。

SIMカードを切り替える場合は、SETモード、またはSIM切替機能を割り当てた[FUNC]で、SIMスロットを選択してください。再起動後、選択したSIMスロットに装着されているSIMカードを使用して、回線に接続します。

切り替え操作後、SIM2からSIM1へ移行する条件

◎SETモードや[FUNC] (P.6-8)で、SIM1に切り替えた場合

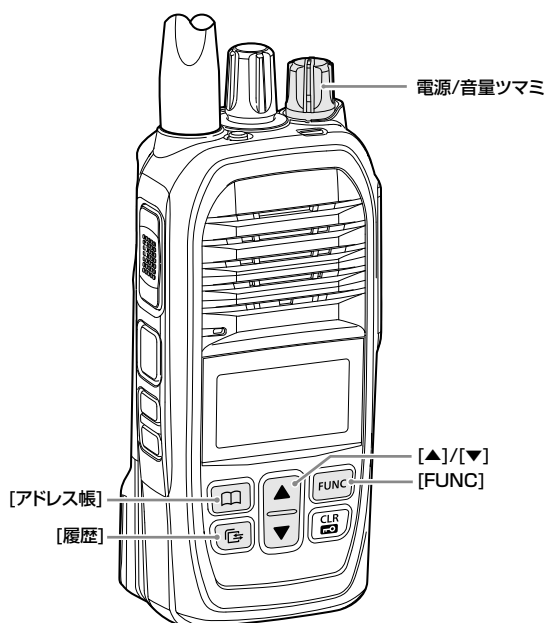
◎リセットをした場合(P.6-6)

◎本製品の電源を切った場合

※お買い上げの販売店で、電源OFF時のSIM選択の初期化が設定されている場合に動作します。

◇ SIMカードをSETモードで切り替えるときは

1. [FUNC]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
2. 「SET」が表示されたら、キーから手をはなします。
3. [▲]/[▼]で「LTE」を選択し、[FUNC]を押します。
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
4. [アドレス帳]、または[FUNC]を押して、「SIM切替」を選択します。
5. [▲]/[▼]で「切替 (SIM2)」を選択します。
※お買い上げの販売店で、SIMスロット(SIM1/SIM2)に名前が設定されている場合は、その内容が表示されます。
6. [履歴]を押します。
 - SETモードが解除され、本製品が再起動します。



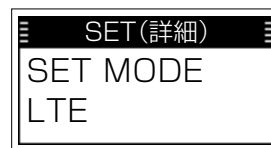
2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ SIMカードを [FUNC] で切り替えるときは

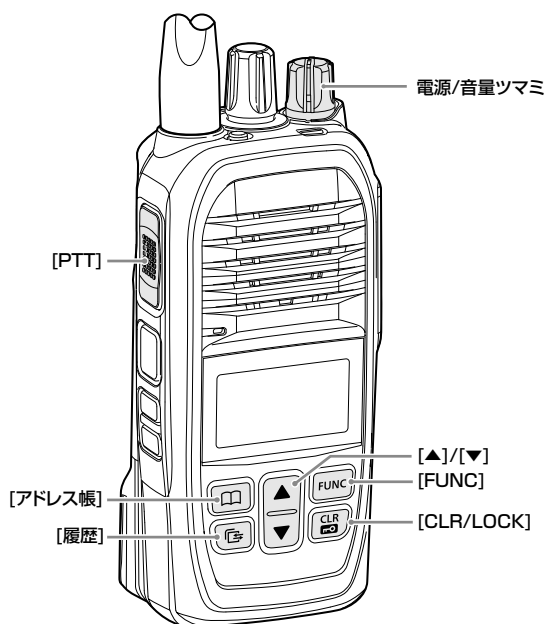
1. SETモード(詳細)で機能を割り当てる

1. [FUNC]と[アドレス帳]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
2. 「SET」が表示されたら、キーから手をはなします。
3. [▲]/[▼]で「LTE」を選択し、[FUNC]を押します。
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
4. [アドレス帳]、または[FUNC]を押して、「SIM切替表示」を選択します。
5. [▲]/[▼]で「有効」を選択します。
6. [PTT]、または[CLR/LOCK]を2回押します。
• SETモードが解除されます。



2. 機能が割り当てられた [FUNC] で切り替える

1. [FUNC]を押して、SIM切替を選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、SIMスロットを選択します。
※お買い上げの販売店で、SIMスロット(SIM1/SIM2)に名前が設定されている場合は、その内容が表示されます。
3. [履歴]を押します。
• OFFからONに切り替わり、本製品が再起動します。
※使用中のSIMスロット(ON表示)を選択している場合、切替操作は無効になります。

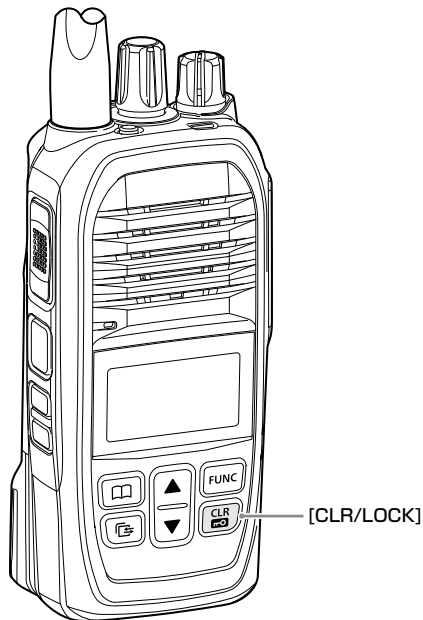


2 LTEモードでの操作

■ 応用操作

◇ 本製品から電話を切りたいときは

相手が応答する前、または通話中に [CLR/LOCK] を押し、本製品から電話を切れます。



※お買い上げの販売店で、通話中の電話切断が設定されている場合に使用できる機能です。

※電話と通話する場合は、別途VE-PG4などが必要になります。
※本製品から電話を切れるのは、電話機から本製品を個別に呼び出したとき、または本製品から電話機を呼び出したときだけです。

◇ 緊急速報機能について

気象庁が配信する緊急地震速報や津波警報、国や地方公共団体が配信する災害/避難情報を、警告音と画面表示で通知する機能です。

※音量が最小のときは、緊急速報の通知音は鳴りません。

■ 基本操作	3-2
◇ 運用モードの切り替え	3-2
◇ 各キーの使いかた	3-2
◇ 通話のしかた	3-3
■ 通話するときのアドバイス	3-4
■ 周波数チャンネルの設定について	3-4
■ SRモードの通信方式について	3-4
■ 通話方法	3-5
◇ 選択呼び出し機能による通話 <input type="button" value="デジタル"/>	3-5
◇ 個別呼び出し機能ON時の通話 <input checked="" type="button" value="アナログ"/>	3-5
◇ 秘話機能による通話 <input type="button" value="デジタル"/>	3-6
◇ ユーザーコード(UC)による通話 <input type="button" value="デジタル"/>	3-8
◇ 連続トーン周波数(CTCSS)による通話 <input checked="" type="button" value="アナログ"/>	3-9
■ スキャン機能 <input type="button" value="デジタル"/>	3-10

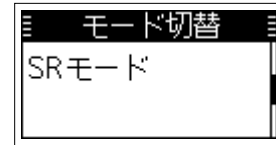
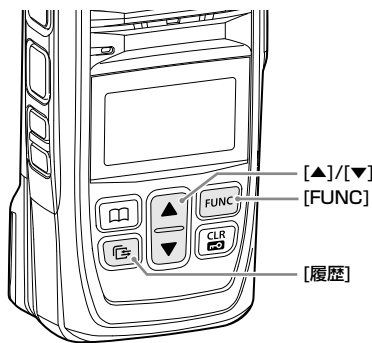
3 SRモードでの操作

■基本操作

◇運用モードの切り替え

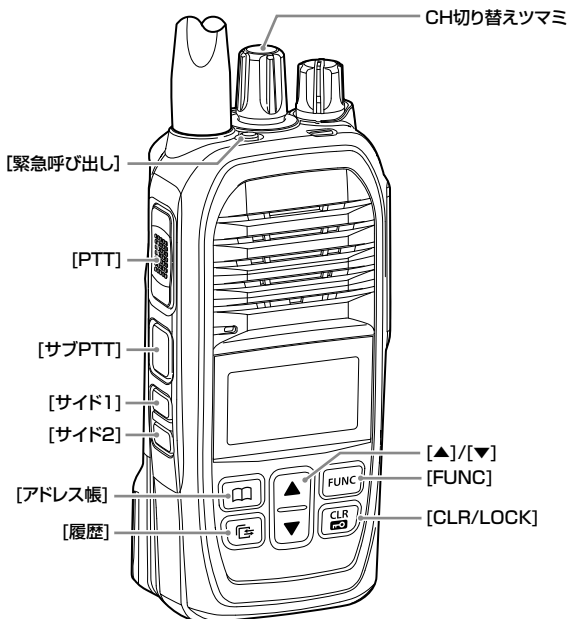
SRモードでは、同じ通話チャンネルの一般業務用無線機と通話できます。

1. [FUNC]を押して、モード切替を選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、「SRモード」を選択します。
3. [履歴]を押します。
• 選択したモードに切り替わります。



SRモード選択時

◇各キーの使いかた



[PTT]	キーを押しているあいだ、送信状態になります。
[アドレス帳]	短押し キーを押すごとに、呼出種別(全体/個別/グループ番号)が切り替わります。
	長押し 送信出力を切り替えるときに操作します。
[履歴]	短押し キーを短く押すごとに、履歴が切り替わります。
	長押し 録音を再生するときに操作します。
[FUNC]	運用モードの切り替え、Bluetooth関連*、録音などを選択するときに操作します。
[CLR/LOCK]	短押し メッセージや履歴などの選択画面から、待受画面に戻ります。
	長押し ロック機能をON/OFFします。
[▲]/[▼]	アドレス帳や履歴画面内のカーソルを移動するために使用します。
CH切り替えツマミ	ツマミを回して、通話チャンネル(デジタル/アナログ)を切り替えます。 ※アドレス帳や履歴画面内のカーソルの移動にも使用できます。

※上表に記載されている機能、[緊急呼び出し]、[サブPTT]、[サイド1]、[サイド2]は、お買い上げの販売店で設定されている場合に使用できます。

★Bluetooth機能搭載バージョン限定

3 SRモードでの操作

■基本操作

◇通話のしかた

1.通話チャンネルを合わせる

CH切り替えツマミを回して通話チャンネル(デジタル/アナログ)を切り替えます。

2. 相手先を選択する

[▲]/[▼]、または[アドレス帳]を押して、アドレス帳から相手先(例：全体)を選択します。

※デジタルモードとアナログモードで選択方法が異なります。(P.3-5)

表示される呼出種別は、お買い上げの販売店、またはSETモード(P.6-9)で変更できます。

3. 呼び出しをする(送信する)

相手と同じ通話チャンネルに合わせてから、他局が通信していないこと(送信/受信ランプ：消灯)を確認後、[PTT]を押しながら、マイクに向かって呼びかけます。

4.呼び出しを受ける(受信する)

信号を受信すると、送信/受信ランプが緑色に点灯して、受信している電波の強さ(目安)が4段階で表示されます。

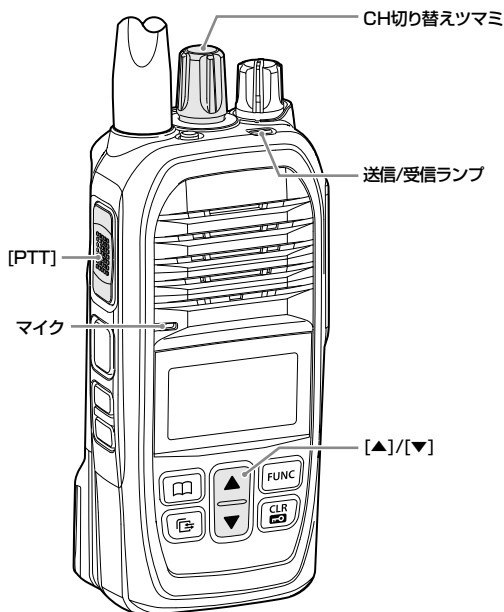
5.通話をつづける

応答するときは、待受状態(送信/受信ランプ：消灯)になってから、[PTT]を押します。

※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。

※通話相手の音声がひずまないように、電源/音量ツマミを回して、音量を調整することをおすすめします。

※スピーカーやマイクに手をかざしたり、ふさいだりすると、十分な性能を発揮できませんので、ご注意ください。



CH A1 (アナログモード) 選択時

番号表示の代わりに名称を表示させるには

通話チャンネル番号、自局番号、相手局のユーザーコード、個別番号、グループ番号の代わりに、名称表示(例：配送一斉)をご使用になる場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

相手局が通信圏内かどうかを確認するには

通信する双方の無線機にアンサーバック機能が設定されている場合、「個別」表示の通話チャンネルを選択した状態で、[PTT]を短く押すと、相手局が通信圏内かどうか確認できます。

- 相手局が通信圏内にいる場合は、送信/受信ランプが赤色に1回点滅したあと、「ピッ」と鳴り、送信/受信ランプが緑色に1回点滅します。

通信圏外など、相手に電波が届かない場合は、終話して、操作前の表示に戻ります。

※アンサーバック機能の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※T102通信方式が設定されている無線機は、デジタルモードでアンサーバック機能を使用できません。

送信出力の切り替え

最適な通信ができるように、相手局との距離に応じて送信出力を切り替えられます。

[アドレス帳]を長く(約1秒)押すごとに、送信出力が切り替わります。ハイパワー選択時は「H」が、ローパワー選択時は「L」が点灯します。

※無線機本体で切り替えできるようにするには、設定が必要です。お買い上げの販売店にご依頼ください。

3 SRモードでの操作

■ 通話するときのアドバイス

マイクの使いかた

マイクに向かって話すときは、口元から約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

通話する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

電波干渉について

比較的狭いエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに、周波数チャンネルの組み合わせを適切に設定することで防止できます。

着信中の送信制限機能について

送信しようとする通話チャンネルで、すでに通話中の局が存在した場合、[PTT]を押しても、「ブーブー」と鳴って、送信を禁止します。

送信できない場合は、他局の通話が終了後に送信しなおしてください。

※ 送信制限機能の設定が必要な場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 周波数チャンネルの設定について

◎使用する周波数チャンネルは、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

◎通話チャンネルに設定された周波数チャンネルの変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ SRモードの通信方式について

本製品は、デジタル通信(ARIB STD-B54方式、ARIB STD-T102方式)とアナログ通信に対応しています。

使用できる通信方式は、あらかじめ決められています。

通信方式によって使用できる機能が異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

T102方式受信機能

B54通信方式に設定されている無線機で、T102通信方式が設定されている無線機の信号を受信できます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



3 SRモードでの操作

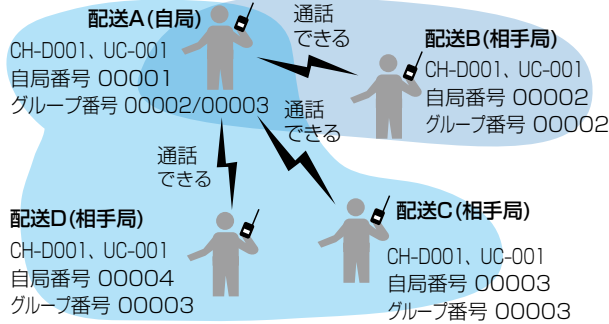
■ 通話方法

◇ 選択呼び出し機能による通話

デジタル

【使用例】

下図の   は、デジタルモード時、配送A(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



※説明のため、送信ユーザーコードと受信ユーザーコードを同じ設定にしたときの例を使用しています。

ユーザーコードについては、3-8 ページをご覧ください。

※選択呼び出し、ユーザーコードを使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。

※グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、お買い上げの販売店で、着信グループの設定が必要です。
相手側の着信グループに含まれていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。

※T102通信方式が設定されている無線機は、選択呼び出しはできません。

選択呼び出しには、次の3種類の方法があります。

全体呼び出し

周波数チャンネル(使用例：CH-D001)とユーザーコード(使用例：UC-001)が同じ、全局(使用例：配送B/配送C/配送D)を一斉に呼び出します。

グループ呼び出し

周波数チャンネル(使用例：CH-D001)とユーザーコード(使用例：UC-001)が同じで、着信グループに設定されたグループ番号(使用例：グループ 00003)に所属するすべての相手局(使用例：配送C/配送D)を呼び出します。



個別呼び出し

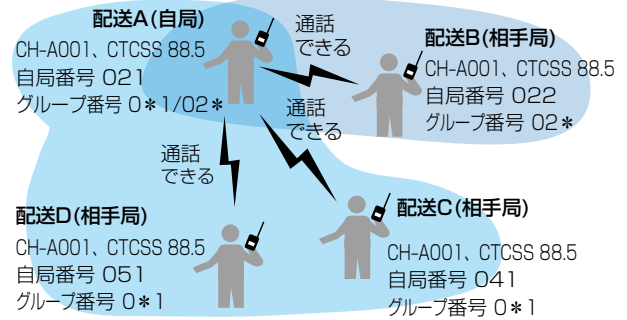
周波数チャンネル(使用例：CH-D001)とユーザーコード(使用例：UC-001)が同じで、呼び出す相手局(使用例：配送B)の自局番号(使用例：00002)を指定して呼び出します。

◇ 個別呼び出し機能ON時の通話

アナログ

【使用例】

下図の   は、アナログモード時、配送A(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



※説明のため、CTCSS(連続トーン周波数)が送信と受信で同じ周波数に設定したときの例を使用しています。

CTCSSについては、3-9ページをご覧ください。

※個別呼び出し、CTCSSを使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。

※グループ番号の「*(アスタリスク)」の部分は、0～9のすべての番号が対象となります。

「0*1」の場合、*部分が0～9の10局が対象になります。

※グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、お買い上げの販売店で、グループ番号の設定が必要です。

個別呼び出しには、次の3種類の方法があります。

全体呼び出し

周波数チャンネル(使用例：CH-A001)と連続トーン周波数(使用例：88.5Hz)が同じ、全局(使用例：配送B/配送C/配送D)を呼び出します。

グループ呼び出し

周波数チャンネル(使用例：CH-A001)と連続トーン周波数(使用例：88.5Hz)が同じで、宛先のグループ(使用例：0*1)に所属する相手局(使用例：配送C/配送D)を呼び出します。

個別呼び出し

周波数チャンネル(使用例：CH-A001)と連続トーン周波数(使用例：88.5Hz)が同じで、呼び出す相手局(使用例：配送B)の自局番号(使用例：022)を指定して呼び出します。

3 SRモードでの操作

■ 通話方法

◇ 秘話機能による通話 デジタル

秘話機能を設定すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。


※通話チャンネル(P.3-3)と秘話コードが一致したすべての相手と通話できます。

※お買い上げの販売店で設定されている場合に使用できます。

※B54通信方式に設定されている無線機だけ、使用できます。

キーを押して秘話コードを変更するときは

例) [サイド1]に「秘話」が設定されている場合

1. CH切り替えツマミを回して、相手と同じチャンネルに合わせます。
2. [サイド1]を押します。
※キー割り当て設定により、操作(短押し/長押し)が異なります。
※[▲]/[▼]で相手と同じ秘話コード(例:01)を選択し、[CLR/LOCK]を押します。
• 秘話機能が設定されているときは、が点灯します。

※お買い上げ時の設定によっては、[FUNC]を数回押しでも秘話の設定画面を表示させることができます。

※通話チャンネルを変更するか、電源を切ると、変更前の設定に戻ります。




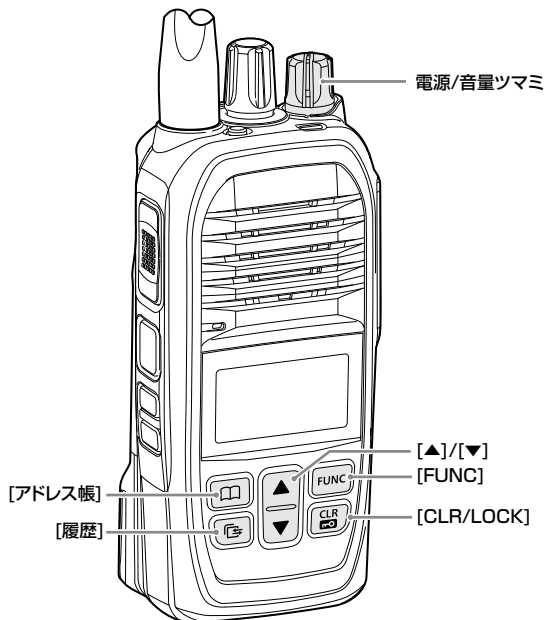
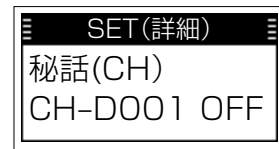
3 SRモードでの操作

■ 通話方法

◇ 秘話機能による通話 デジタル

SETモード(詳細)で秘話コードを変更するときは

1. [FUNC]と[アドレス帳]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
※「SET」が表示されたら、キーから手をはなします。
2. [▲]/[▼]で「SR」を選択し、[FUNC]を押します。
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
3. [アドレス帳]、または[FUNC]を押して、「秘話(CH)」を選択します。
4. [▲]/[▼]で秘話コードを設定したいチャンネル(例：CH-D001)を選択します。
5. [FUNC]を押して、「秘話(鍵番号)」を選択します。
6. [▲]/[▼]で相手と同じ秘話コード(例：01)を選択します。
7. [PTT]、または[CLR/LOCK]を2回押します。
 - SETモードが解除されます。
 - 秘話機能が設定されているときは、が点灯します。



3 SRモードでの操作

■通話方法

◇ユーザーコード(UC)による通話 デジタル

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、簡易的な通話グループが構成できます。ほかの人の音声を聞こえなくして、特定の相手の音声だけを聞くときに使用します。

※デジタルモードで使用できます。

アナログ通信用の通話チャンネル選択時、ユーザーコードによる呼び出しはできません。

※通話チャンネル(P.3-3)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

※秘話機能や選択呼び出し機能と併用できます。

※お買い上げの販売店で設定されている場合に使用できます。

※ユーザーコード設定を「チャンネル共通」にすると、すべての通話チャンネルに共通ユーザーコードが設定できます。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

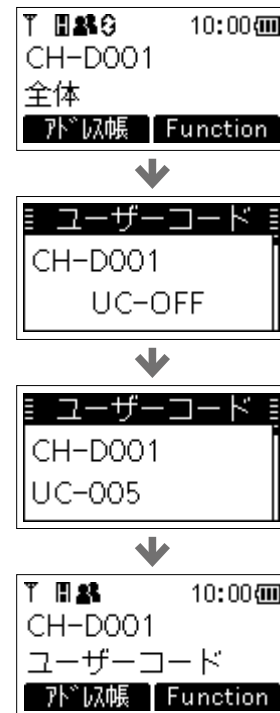
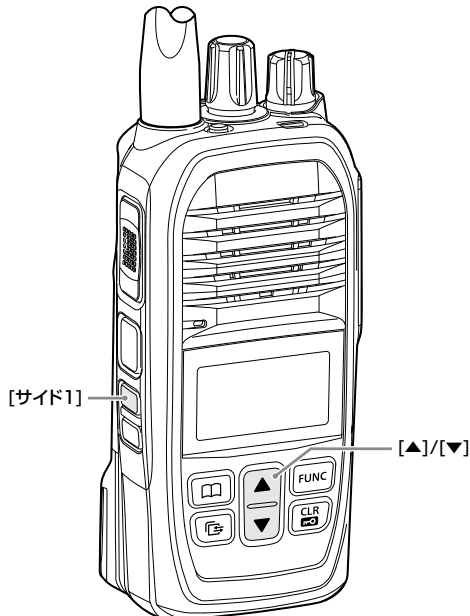
※T102通信方式の無線機は、B54通信方式の無線機と通信できません。

※T102方式受信機能が設定されているB54通信方式の無線機は、T102通信方式の無線機から信号を受信できます。

キーを押してユーザーコードを変更するときは

例) [サイド1]に「ユーザーコード」が設定されている場合

1. CH切り替えツマミを回して、相手と同じチャンネルに合わせます。
2. [サイド1]を押します。
※キー割り当て設定により、操作(短押し/長押し)が異なります。
※お買い上げ時の設定によっては、[FUNC]を数回押して表示されるユーザーコード(送信)、またはユーザーコード(受信)を選択することで、送信用と受信用で異なるユーザーコードを使用できます。
3. [▲]/[▼]で相手と同じユーザーコード(例：UC-005)を選択し、[CLR/LOCK]を押します。



3 SRモードでの操作

■ 通話方法

◇ 連続トーン周波数(CTCSS)による通話

アナログ

アナログモードで個別呼び出し機能がOFF時のとき、複数の通話相手と同じ連続トーン周波数(CTCSS)を設定すると、通話グループが構成できます。

周波数チャンネル(例：CH-A001)と連続トーン周波数(例：88.5Hz)が一致したすべての相手呼び出せます。

※送信側CTCSSと受信側CTCSSの周波数が異なる場合、通話できません。

送信と受信で異なるCTCSSを設定することで、多様な通話グループを構成できます。

※個別呼び出し機能とも併用できます。

※デジタル通信用の通話チャンネル選択時、CTCSSによる呼び出しはできません。

※使用する周波数チャンネルは、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

通話チャンネルに設定された周波数チャンネルの変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※使用するCTCSS(連続トーン周波数)は、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

通話チャンネルに設定されたCTCSSの変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

3 SRモードでの操作

■ スキャン機能

デジタル

スキャン機能を使用すると、周波数チャンネルを自動で切り替えて、使用中の周波数チャンネルを探し出せます。

※設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

スキャンを開始/停止するときは

1. [FUNC]を押して、「スキャン」を選択します。

※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。

2. [▲]/[▼]を押して、「開始」または「停止」を選択します。

3. [履歴]を押します。

• スキャン中は「Z」が点灯します。

※無線機本体のキー([PTT]、[サブPTT]、[サイド1])に「スキャン」が設定されている場合は、これらのキーを押してもスキャンを開始/停止できません。

※着信したときは、スキャンを一時停止し、設定にしたがって再開します。

※スキャンの一時停止中は、停止中の周波数チャンネルで送信します。

※スキャン中に[PTT]を押した場合、通話チャンネルに設定されている周波数チャンネルで送信します。

※スキャン中は、選択呼び出しや緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。



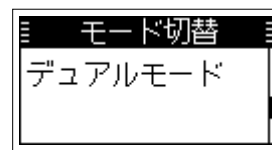
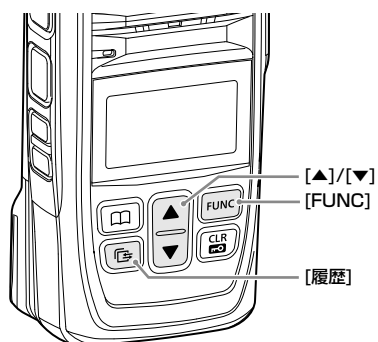
■ 運用モードの切り替え	4-2
■ メイン/サブの切り替えと送信のしかた	4-3
◇ 切り替えかた	4-3
◇ 送信のしかた	4-3
■ 各キーの使いかた	4-4

4 デュアルモードでの操作

■運用モードの切り替え

デュアルモードでは、LTEモードとSRモードを同時に使用できます。

1. [FUNC]を押して、モード切替を選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]を押して、「デュアルモード」を選択します。
3. [履歴]を押します。
 - 選択したモードに切り替わります。



デュアルモード選択時

4 デュアルモードでの操作

■メイン/サブの切り替えと送信のしかた

[PTT]で送信できるメイン(上部)と[サブPTT]で送信できるサブ(下部)に、LTEモードとSRモードを割り当てて使用します。

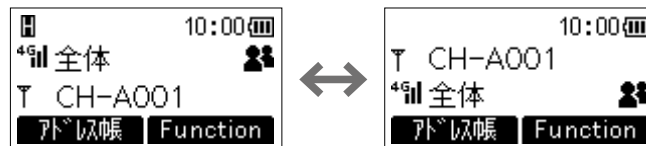


◇切り替えかた

[FUNC]を長く(約1秒)押しすごとに、メインとサブが切り替わります。

※初回起動時(リセット/ファームウェア更新後)は、メイン(上部)がLTEモード、サブ(下部)がSRモードになります。

※お買い上げの販売店、または本製品のSETモード(P.6-10)で設定されている場合に使用できます。

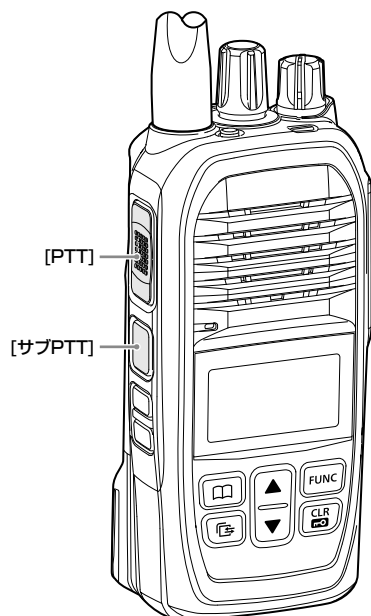


◇送信のしかた

◎[PTT]を操作するとメイン側、[サブPTT]を操作するとサブ側に表示されている運用モードの呼出種別(呼出先)に対して送信できます。

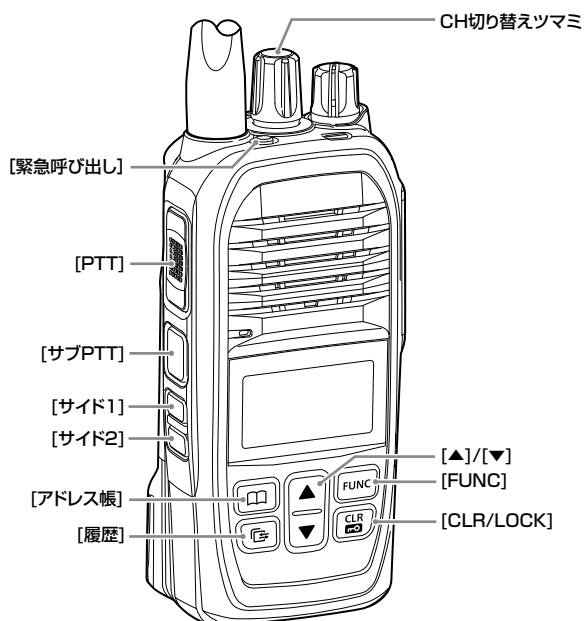
◎LTEモードとSRモードに対して同時送信するときは、[PTT]と[サブPTT]を同時に操作します。

※呼出種別(呼出先)や通話チャンネルを変更できるのは、メイン側に表示されている運用モードだけです。サブ側を変更するときは、いったんメインに切り替えてから操作してください。



4 デュアルモードでの操作

■ 各キーの使いかた



[PTT]	キーを押しているあいだ、メイン側が送信状態になります。	
[サブPTT]	キーを押しているあいだ、サブ側が送信状態になります。 ※デュアルモード時は、設定に関係なくサブ側を送信するPTT動作になります。	
[アドレス帳]	短押し	メイン LTE アドレス帳を利用して、送信するときに操作します。 キーを押すごとに、呼出種別(全体/グループ(トークグループ)/個別/電話)が切り替わります。 ※アドレス帳が無効になっている場合は、待受画面(下部)に表示された特定の呼出種別(呼出先)を呼び出せます。
	長押し	メイン SR SRの送信出力を切り替えるときに操作します。
[履歴]	短押し	キーを短く押すごとに、履歴が切り替わります。
	長押し	録音を再生するときに操作します。
[FUNC]	短押し	LTEモード時、SRモード時と同様に、運用モードの切り替え、Bluetooth関連★、録音などを選択するときに操作します。
	長押し	メイン/サブを切り替えるときに操作します。
[CLR/LOCK]	短押し	メッセージや履歴などの選択画面から、待受画面に戻ります。
	長押し	ロック機能をON/OFFします。
[▲]/[▼]	アドレス帳や履歴画面内のカーソルを移動するために使用します。	
CH切り替えツマミ	アドレス帳や履歴画面内のカーソルを移動するために使用します。 待ち受け状態でツマミを回すと、通話チャンネル(デジタル/アナログ)を切り替えられます。	

※上表に記載されている機能、[緊急呼び出し]、[サイド1]、[サイド2]は、お買い上げの販売店で設定されている場合に使用できます。

★Bluetooth機能搭載バージョン限定

■ Bluetooth機能 (Bluetooth機能搭載バージョン限定)	5-2
◇ ペ어링のしかた	5-2
■ 緊急呼び出し機能 (エマージェンシー)	5-4
■ 静止状態検出機能	5-5
■ 動作状態検出機能	5-6
■ Lone Worker機能	5-7
◇ 静止状態検出について	5-7
■ マンダウン機能	5-8
◇ 静止状態検出について	5-8
■ 録音機能	5-9
◇ 録音のしかた	5-9
◇ 録音内容をすべて消去するときは	5-11
■ キー割り当て設定	5-12
■ ロック機能	5-13

■ Bluetooth機能(Bluetooth機能搭載バージョン限定)

本製品のBluetooth機能を有効にすると、Bluetooth対応機器と接続できます。

※Bluetooth機能を使用する場合は、SETモードでの設定が必要です。(P.6-5)

※Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。

※本製品は、最大4台(ヘッドセット)までのBluetooth機器を登録できますが、本製品とBluetooth機器を1対1の組み合わせで設定されることをおすすめします。

※本製品と別売品のVS-3(Bluetoothヘッドセット)をBluetooth接続することで、VS-3から送受信操作ができます。

Bluetoothの通信においては、周辺機器の影響で通信距離が著しく変化します。

電子レンジなどによる妨害

無線LANによる妨害

このような場合は、ほかのワイヤレス通信を停止させたり、電子レンジなどの使用を中止したり、周辺機器との距離をはなすなどしてください。

また、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけると、通信状況が改善することがあります。

◇ ペアリングのしかた

ペアリング(接続の認証)とは、Bluetooth機器と本製品をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

※複数のBluetooth機器がある場所では、ペアリングしたいBluetooth機器が検索できないことがあります。

このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。

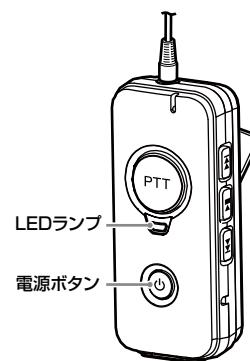
※電源を切るなどして、Bluetooth接続を切断した場合は、無線機本体側のスピーカーから音が出るように切り替わります。無線機本体側の音量ボリュームの上げすぎにご注意ください。

※本書では、VS-3を例に説明しています。

1.VS-3をペアリングモードにする

1. LEDランプが赤/青交互に点滅するまで、VS-3の[電源]を長く(約6秒)押します。
2. 「ピパ」*と鳴って、LEDランプが赤/青交互に点滅したら、ボタンから手をはなします。
※はじめてVS-3をご使用になる場合は、電源を入れるだけでペアリングモードになります。
※ペアリングする機器がない状態が5分つづくと、ペアリングモードが解除され、さらに5分経過すると、電源が切れます。

★VS-3に接続しているイヤホンから音が鳴ります。



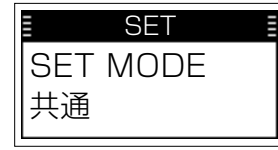
5 共通機能

■ Bluetooth機能(Bluetooth機能搭載バージョン限定)

◇ペアリングのしかた

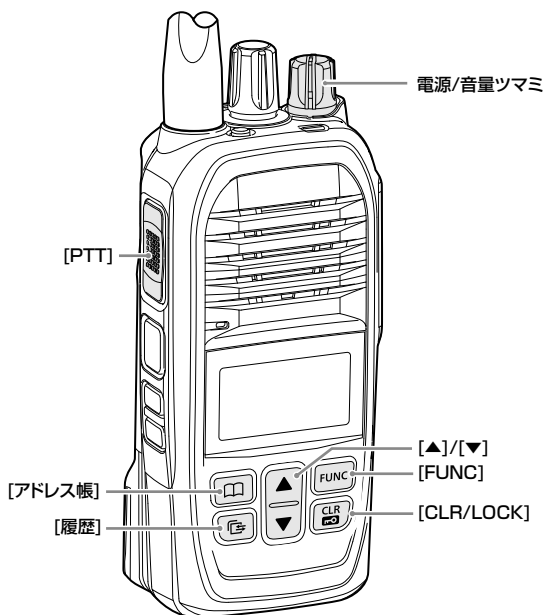
2.SETモードでBluetooth機能を有効にする

1. [FUNC]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
2. 「SET」が表示されたら、キーから手をはなします。
3. [▲]/[▼]で「共通」を選択し、[FUNC]を押します。
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
4. [アドレス帳]、または[FUNC]を押して、「Bluetooth」を選択します。
5. [▲]/[▼]で「有効」を選択します。



3.無線機とVS-3をペアリングする

1. [FUNC]を繰り返し押して、「Bluetooth機器検索」を選択します。
2. [履歴]を押します。
 - 「検索中…」が表示されます。
 - 検索が完了すると、対象機器の名称とBDアドレスが表示されます。
3. 表示された検索結果を確認し、[履歴]を押します。
 - 選択した機器とペアリングすると、「接続実行」が表示されます。
 - 再検索するときは、[▲]/[▼]で「検索」を選択し、[履歴]を押します。
4. [PTT]、または[CLR/LOCK]を2回押します。
 - SETモードが解除されます。



ペアリング後の動作について

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

下記の条件を満たしている場合、自動で接続します。

- ◎無線機のBluetooth機能ON(有効)時
- ◎無線機が待ち受け状態
- ◎Bluetooth機器の電源ON時

※接続中は「*」が点滅します。

接続が完了すると「*」が点灯します。

※[FUNC]を押して表示される「ペアリングリスト」からも接続できます。

※2023年4月現在、動作保証しているBluetooth機器は、VS-3だけです。

5 共通機能

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合など、あらかじめ設定されている相手に緊急呼び出しをする機能です。

※お買い上げの販売店で、緊急呼び出し機能が設定されているときは、「E」が点灯しています。

※アナログモードで使用する無線機で、個別呼び出し機能がOFFに設定されているときは、緊急呼び出しによる送信ができません。(緊急信号を送信しないで、周囲に緊急状態を通知するアラームは使用できます。)

※T102通信方式が設定されている無線機は、デジタルモードでの緊急呼び出し機能を使用できません。

緊急呼び出しをするときは

- 「緊急」と表示されるまで、[緊急呼び出し]を長く押しします。
 - 「緊急」が表示され、警告音(ピロピロ…)が一定の間隔で鳴ります。
 - 「緊急」表示の状態、サイレントモードに設定されている場合は、警告音や緊急表示は動作しません。
- 「緊急」表示の状態、応答を待ちます。
 - 応答があると、警告音(ピロピロ…)が停止し、送信/受信ランプが緑色に点灯します。
 - 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。
- ※緊急呼び出しを解除するときは、「緊急」の表示が消えるまで[緊急呼び出し]を長く押し、または本製品の電源を切ってください。
- [緊急呼び出し]長押しによる解除は、お買い上げの販売店で設定されている場合に使用できます。

緊急呼び出しを受けるとき

- 「緊急」と呼び出し先が表示され、警告音(ピロピロ…)が一定の間隔で鳴ります。
 - ※お買い上げの販売店で、サイレントモードに設定されている場合は、警告音は動作しません。
- [PTT]を押しながら、マイクに向かって、応答します。
 - 警告音(ピロピロ…)が停止します。
 - [PTT]を押しているあいだは、送信/受信ランプが赤色に点灯します。
 - 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

SRモードで緊急呼び出し機能を正しく使用するには

送信側と受信側の緊急呼び出し機能を「有効」に設定する必要があります。

「無効」に設定されている場合や、緊急呼び出しができないように設定された通話チャンネルでは、[緊急呼び出し]を押しつづけても送信しません。

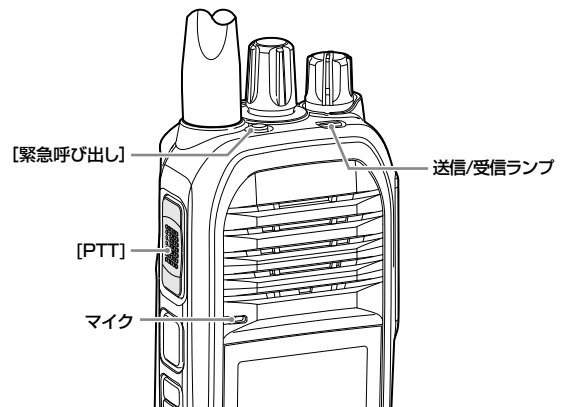


緊急呼び出し表示

緊急呼び出し表示
(サイレントモード)



緊急呼び出し受信中



ご注意

本製品に搭載されている緊急呼び出し機能は、電池の消耗、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

緊急呼び出し機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

5 共通機能

■ 静止状態検出機能

お買い上げの販売店、または本製品のSETモードで静止状態検出機能(P.6-4)が設定されていると、下記の場合に静止状態警告タイマーが動作します。

静止状態警告タイマーで設定した時間が経過すると、緊急呼び出し(P.5-4)が自動的に動作します。

条件：静止状態監視タイマーで設定した時間、本製品が静止状態と判断されたとき

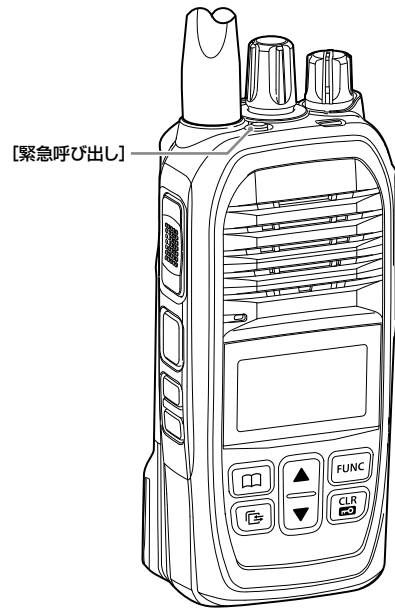
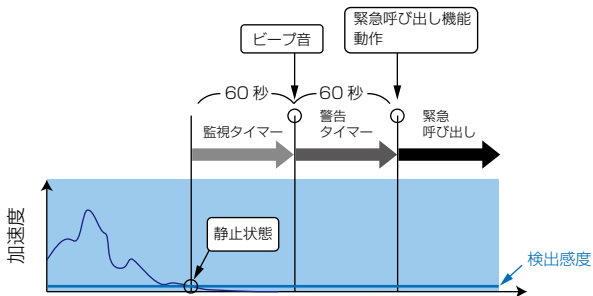
※緊急呼び出し機能が動作するまでに、お買い上げの販売店で設定された解除判定時間(例：10秒)、[緊急呼び出し]を長押しすると、静止状態監視タイマーと静止状態警告タイマーの両方がリセットされます。

※設定については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

動作例

静止状態監視タイマー(秒)：60秒

静止状態警告タイマー(秒)：60秒



5 共通機能

■動作状態検出機能

お買い上げの販売店、または本製品のSETモードで動作状態検出機能(P.6-4)が設定されていると、下記の場合に動作状態警告タイマーが動作します。

動作状態警告タイマーで設定した時間が経過すると、緊急呼び出し(P.5-4)が自動的に動作します。

条件：動作状態監視タイマーで設定した時間、本製品が運動状態と判断されたとき

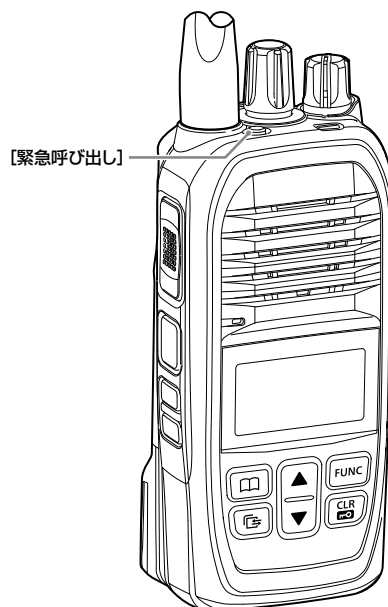
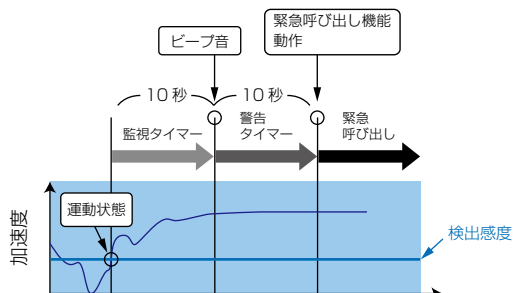
※緊急呼び出し機能が動作するまでに、お買い上げの販売店で設定された解除判定時間(例：10秒)、[緊急呼び出し]を長押しすると、動作状態監視タイマーと動作状態警告タイマーの両方がリセットされます。

※設定については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

動作例

動作状態監視タイマー(秒)：10秒

動作状態警告タイマー(秒)：10秒



5 共通機能

■ Lone Worker機能

本製品を一定時間操作しなかった場合、Lone Worker機能が動作します。

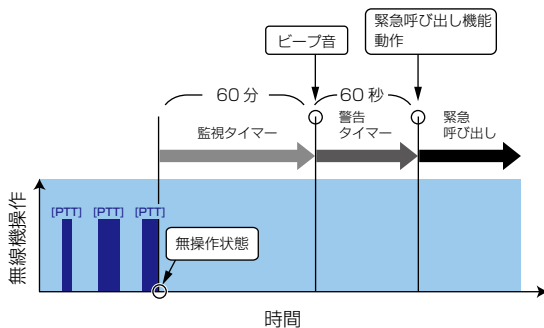
Lone Worker機能が動作すると、緊急呼び出し機能(P.5-4)が自動的に動作します。

警備中など定期連絡を義務付けている場合に、何らかの事故が発生して連絡ができなかったときに便利な機能です。
※お買い上げの販売店で、Lone Worker機能が設定されている場合に使用できます。

動作例

Lone Worker監視タイマー(分)：60分

Lone Worker警告タイマー(秒)：60秒



◇ 静止状態検出について

お買い上げの販売店でLone Worker機能の静止状態検出が設定されていると、下記の場合にLone Worker警告タイマーが動作します。

Lone Worker警告タイマーで設定した時間が経過すると、緊急呼び出しが自動的に動作します。

条件：Lone Worker監視タイマーで設定した時間、本製品の操作がなかった、かつLone Worker監視タイマーで設定した時間、静止状態と判断されたとき

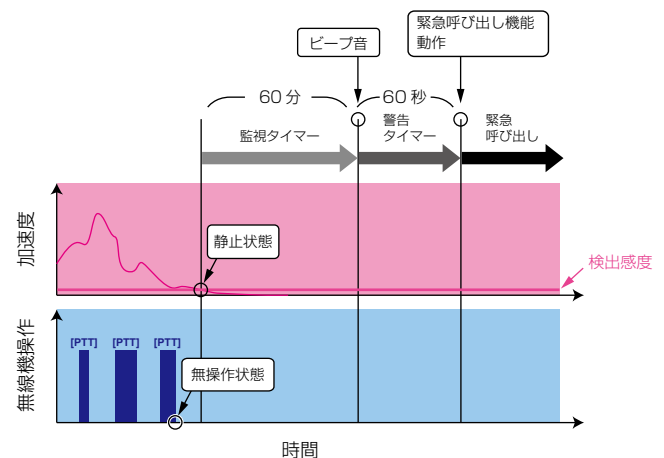
※Lone Worker監視タイマー、またはLone Worker警告タイマー中に、本製品を操作する、または本製品を動かすと、Lone Worker監視タイマーとLone Worker警告タイマーの両方がリセットされます。

※設定については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

動作例

Lone Worker監視タイマー(分)：60分

Lone Worker警告タイマー(秒)：60秒



ご注意

本製品に搭載されているLone Worker機能は、電池の消耗、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

Lone Worker機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■ マンダウン機能

本製品を使用している人が倒れるなどして、本製品が設定された検出角度(45、60、75度)以上に傾いた状態が一定時間つづく、マンダウン機能が動作します。

マンダウン機能が動作すると、緊急呼び出し機能(P.5-4)が自動的に動作します。

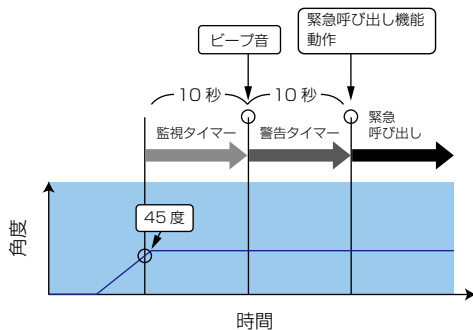
※お買い上げの販売店で、マンダウン機能が設定されている場合に使用できます。

動作例

マンダウン監視タイマー(秒)：10秒

マンダウン警告タイマー(秒)：10秒

検出角度(度)：45度



本製品が45度以上傾いた状態が10秒間つづいた場合、「ピッピッ」と警告音が鳴ります。

警告音が鳴りはじめて、本製品が45度以上傾いた状態が10秒間つづく、緊急呼び出しが自動的に動作します。

※緊急呼び出しが動作するまでに本製品の傾きを45度以内にもどすと、マンダウン機能が再設定されます。

◇ 静止状態検出について

お買い上げの販売店でマンダウン機能の静止状態検出が設定されていると、下記の場合にマンダウン警告タイマーが動作します。

マンダウン警告タイマーで設定した時間が経過すると、緊急呼び出しが自動的に動作します。

条件：本製品が傾いたままマンダウン監視タイマーで設定した時間が経過した、かつマンダウン監視タイマーで設定した時間、静止状態と判断されたとき

※マンダウン監視タイマー、またはマンダウン警告タイマー中に、本製品の傾きが設定した角度以下になる、または本製品を動かすと、マンダウン監視タイマーとマンダウン警告タイマーの両方がリセットされます。

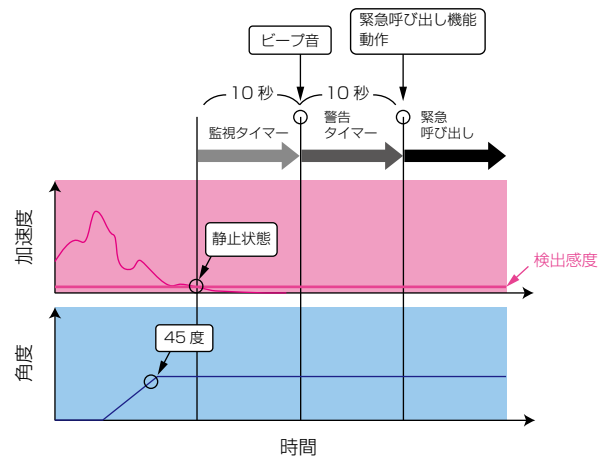
※設定については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

動作例

マンダウン監視タイマー(秒)：10秒

マンダウン警告タイマー(秒)：10秒

検出角度(度)：45度



ご注意

本製品に搭載されているマンダウン機能は、電池の消耗、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

マンダウン機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

5 共通機能

■ 録音機能

受信した内容を録音できる機能です。

1件あたり最大4分まで録音できます。

※保存された録音が10件を超える、または録音の合計が4分を超えると、古いものから自動的に消去されます。

※録音を再生できるのは、お買い上げの販売店で「履歴」に録音再生機能が設定されている、または「録音履歴表示中の再生」が有効に設定されている場合です。

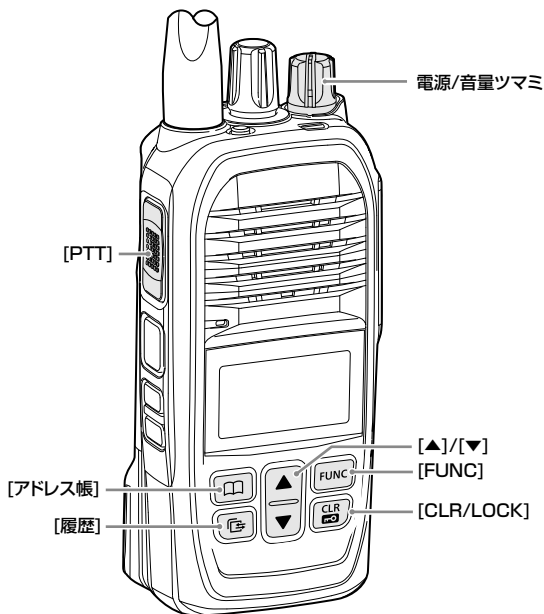
※初期値では、録音する対象は個別呼出に設定されていますが、SETモードで変更できます。(P.6-4)

※本製品の録音データは、取り出せません。

◇ 録音のしかた

1.SETモードで録音機能を有効にする

1. [FUNC]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
2. 「SET」が表示されたら、キーから手をはなします。
3. [▲]/[▼]で「共通」を選択し、[FUNC]を押します。
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
4. [アドレス帳]、または[FUNC]を押して、「録音」を選択します。
5. [▲]/[▼]で「有効」を選択します。
6. [PTT]、または[CLR/LOCK]を2回押します。
• SETモードが解除されます。



録音機能をご利用時のご注意

電源を切るときに、録音内容が無線機本体のメモリーに保存されますので、「電源OFF…」の表示が消えるまでお待ちください。

※処理が完了する前にバッテリーパックを取りはずした場合、録音データが消えたり、消去した録音内容が残ったりすることがありますのでご注意ください。




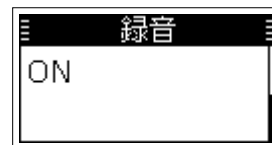
5 共通機能

■ 録音機能

◇ 録音のしかた

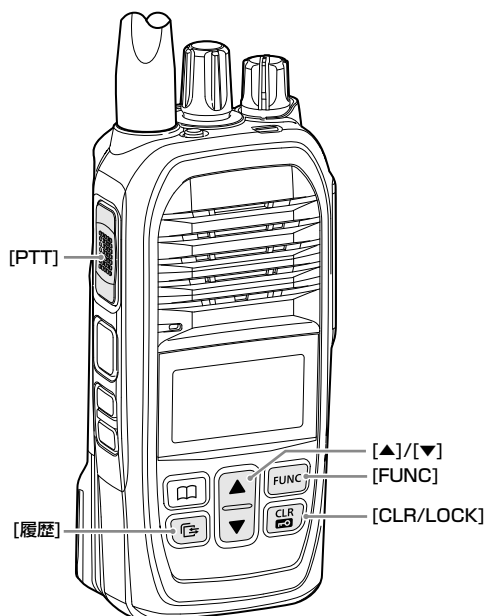
2. 録音モードをON/OFFする

1. [FUNC]を数回押して、録音を選択します。
※キーを押すごとに、お買い上げの販売店で割り当てられた機能が表示されます。
2. [▲]/[▼]で「ON」を選択します。
3. [PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
 - 「」が点灯します。
 - 録音モードON時、再生されていない録音内容があるときは、アイコンが点滅します。



3. 録音を再生するときは

1. [履歴]を押して、録音履歴を選択します。
※キーを押すごとに、送信⇒受信⇒メッセージ送信⇒メッセージ受信⇒電話発信⇒電話着信⇒録音と、履歴が切り替わります。
2. [▲]/[▼]を押して、確認する録音を選択します。
※録音がないときは、録音履歴は表示されません。
3. [履歴]を長く(約1秒)押します。
 - 選択した録音が再生されます。
 - 再生中に[▲]/[▼]を押すと、再生を停止します。

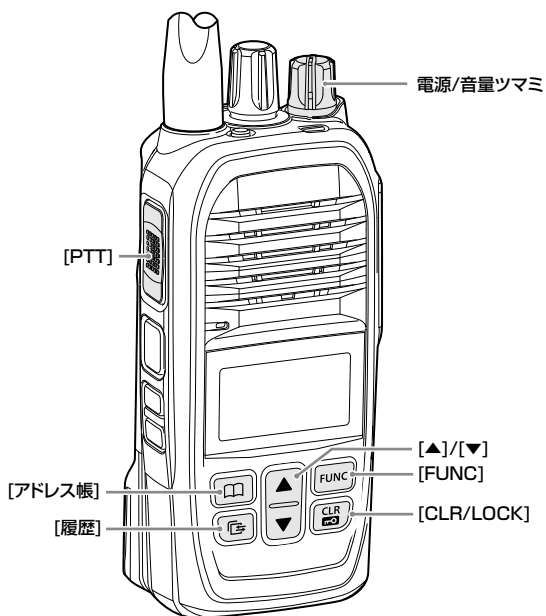


5 共通機能

■ 録音機能

◇ 録音内容をすべて消去するときは

1. [FUNC]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
2. 「SET」が表示されたら、キーから手をはなします。
3. [▲]/[▼]で「共通」を選択し、[FUNC]を押します。
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
4. [アドレス帳]、または[FUNC]を押して、「録音データ消去」を選択します。
5. [▲]/[▼]で「消去」を選択します。
6. [履歴]を押します。
 - 録音内容がすべて消去されます。



5 共通機能

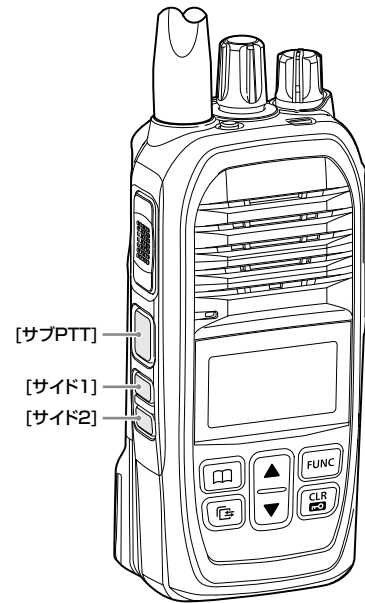
■キー割り当て設定

よく使用する機能を[サブPTT]、[サイド1]、[サイド2]に割り当てる設定です。

※お買い上げの販売店、または本製品のSETモード(P.6-5)で設定されている場合に使用できます。


※割り当てられた機能は、各キーを短く押したときや長く押したときに動作します。

モニター	<p>キーを押して、モニター機能を使用したいとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局への通話を聞くと ◎アナログモードで使用する通話チャンネルを選択後、受信音がない状態で、「ザーツ」という音を聞きながら音量を調整するとき <p>※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音だけが聞こえます。</p> <p>※キーを押しているあいだ、モニター機能が有効になります。SETモードで使用するキーの[長押し]に「モニター」を設定してください。(P.6-5)</p>
ワンタッチ	<p>キーを押して、特定の呼出種別、または相手を選択したいとき</p>
スキャン	<p>スキャンを開始/停止したいとき</p> <p>※SRモードのデジタルチャンネルで使用できます。</p> <p>※デュアルモードでは使用できません。</p>
ユーザーコード	<p>キーを押して、ユーザーコードを切り替えたいとき</p> <p>※SRモードのデジタルチャンネルで使用できます。</p>
メッセージ	<p>キーを押して、よく使うメッセージを選択したいとき</p>
遠隔送信(エマージェンシーサイレントモード)	<p>任意の無線機に緊急呼び出し(サイレントモード)の送信を要求したいとき</p>
秘話	<p>秘話コードを切り替えたいとき</p> <p>※SRモードのデジタルチャンネルで使用できます。</p> <p>※B54通信方式に設定されている無線機だけ、使用できます。</p>



5 共通機能

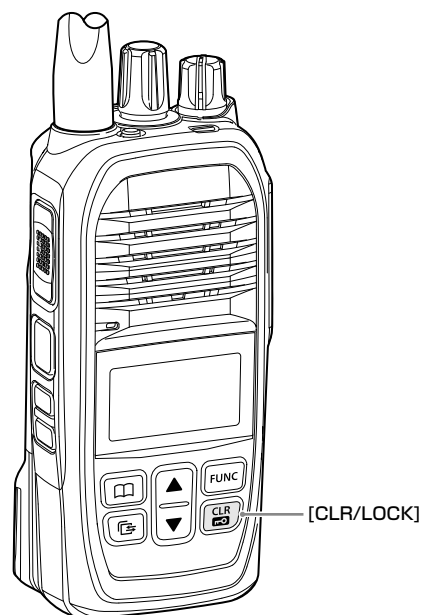
■ロック機能

[CLR/LOCK]を長く(約1秒)押すと、「ピピッ」と鳴って、「」が点灯します。

※同じ操作をすると、ロックを解除できます。

※ロックされない操作は、ロック機能の解除、送信/受信、モニター機能のON/OFF、電源の入/切、音量調整です。

※緊急呼び出し機能が設定されている場合、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。



■ SETモードに移行するには	6-2
■ SETモードで設定を変更するには	6-3
■ 設定項目一覧	6-4
◇ 共通	6-4
◇ LTE	6-7
◇ SR	6-9
◇ デュアル	6-10

6 各種機能の設定(SETモード)

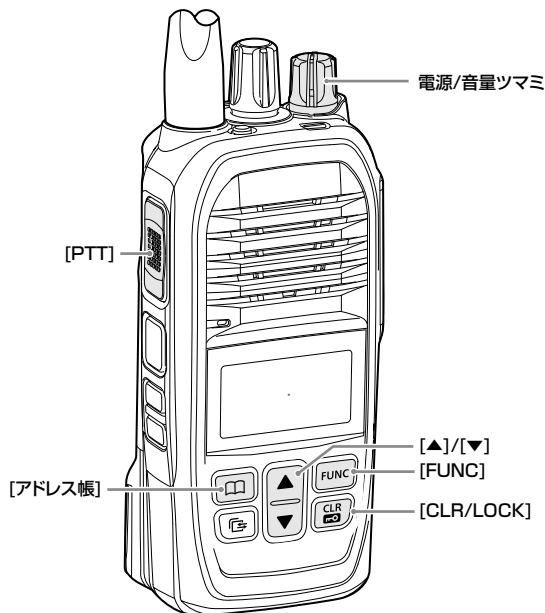
■ SETモードに移行するには

各機能を変更できるSETモードは、基本と詳細の2種類があり、表示される設定項目が異なります。

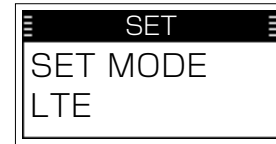
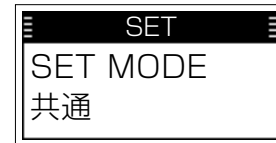
また、メニューごとに設定項目が構成されていますので、6-4ページ以降をご覧ください。

※SETモードを解除(P.6-3)するまで、送信や受信ができません。

1. 基本モードの場合：[FUNC]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
詳細モードの場合：[FUNC]と[アドレス帳]を押しながら、電源/音量ツマミを時計方向に回して電源を入れます。
2. 「SET」が表示されたら、キーから手をはなします。
3. [▲]/[▼]を押して設定するメニュー(共通/LTE/SR/デュアル)を選択し、[FUNC]を押します。
※適合表示無線設備の番号など認証番号を確認するときは、基本モードで「認証」を選択します。
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。

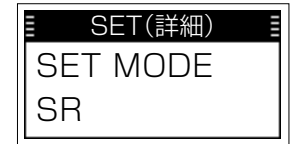
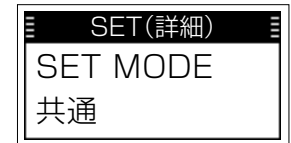


基本モード



LTEメニュー選択時

詳細モード



SRメニュー選択時

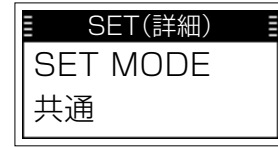
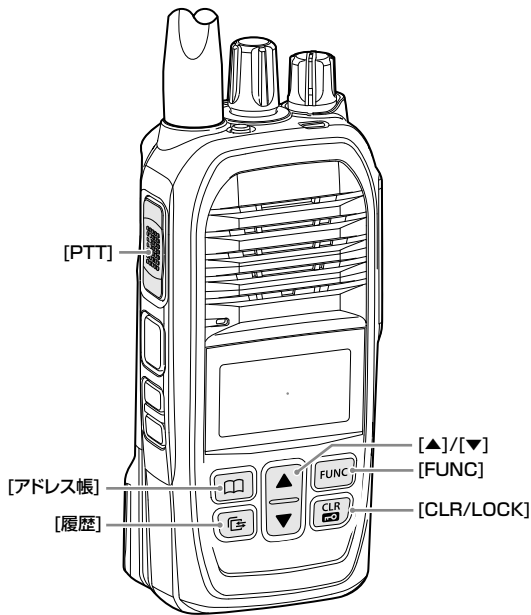
6 各種機能の設定(SETモード)

■ SETモードで設定を変更するには

SETモードに移行後、下記の手順で設定を変更できます。
※メニューごとの設定項目については、6-4ページ以降をご覧ください。

例) 共通メニューのキー操作音(P.6-4)を設定する場合

1. [▲]/[▼]を押して設定するメニューを選択し、[FUNC]を押します。(P.6-3)
※メニューの選択画面に戻るときは、[PTT]、または[CLR/LOCK]を押します。
2. [アドレス帳]、または[FUNC]を押して、項目を選択します。
3. [▲]/[▼]を押して、設定内容を変更し、確定します。
※ほかの機能も変更するときは、手順2と3の操作を繰り返します。
4. [PTT]、または[CLR/LOCK]を2回押します。
 - SETモードが解除されます。※リセット(初期化)、FIRM UP、履歴削除をする場合は、[履歴]を押します。



キー操作音設定時

6 各種機能の設定(SETモード)

■ 設定項目一覧

各機能を変更できるSETモードは、メニューごとに設定項目が構成されています。(P.6-7、P.6-9、P.6-10)

※基本と詳細の2種類(P.6-3)があり、 欄は、SETモード(基本)でも変更できる設定項目です。

※表示される設定項目や初期値は、お買い上げ時の設定によって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

◇ 共通

項目	内容	選択肢/設定範囲	初期値
履歴消去	受信や送信の履歴消去	---、消去	---
FIRM UP	本製品のファームウェア更新	中止、実行	中止
受信通知音量	着信時やメッセージ受信時に鳴る通知音の音量レベル	0～32	10
受信通知音以外の通知音量	送信時やメッセージ送信時に鳴る通知音の音量レベル	0～32	10
キー操作音	キーを操作したときの確認音	無効、有効	有効
イヤホン設定	イヤホンに適した音量に設定する	自動、有効、無効	自動
内部マイクゲイン	内部マイクの感度	-12dB(低)～12dB(高) (4dB刻み)	0dB
外部マイクゲイン	外部マイクの感度	-12dB(低)～12dB(高) (4dB刻み)	0dB
VOX機能	VOX機能対応のヘッドセット(別売品)を接続して、音声によって送受信を自動的に切り替えるときの設定	無効、イヤホンマイク、Bluetoothマイク★ ⁴	無効
VOX感度★ ¹	音声信号が入力されたことを検知するしきい値レベル ※設定値が小さいほど、小さな音声でも検知します。	1～10	5
VOXディレイタイマー★ ¹	VOX検出停止から送信停止までの時間(秒)	0.5～3.0	1.0
マンダウン機能★ ²	無線機を使用している人が倒れるなどして、無線機が設定値以上傾いた状態が一定時間つづく、自動で緊急呼び出しをする機能	無効、有効	無効
Lone Worker機能★ ²	無線機を一定時間操作しなかった場合、自動で緊急呼び出しをする機能	無効、有効	無効
静止状態検出機能★ ²	無線機が一定レベル以上動かない場合、自動で緊急呼び出しをする機能	無効、有効	無効
動作状態検出機能★ ²	無線機が一定レベル以上動いた場合、自動で緊急呼び出しをする機能	無効、有効	無効
録音	録音機能を設定する	無効、有効	無効
録音対象★ ³	録音する対象を設定する	個別呼出、すべて	個別呼出
録音データ消去★ ³	録音データを消去する	---、消去	---

★¹ VOX機能を設定すると表示される項目です。

★² お買い上げの販売店で、緊急呼び出し機能(エマージェンシー)が設定されている場合に表示される項目です。

★³ 録音機能を設定すると表示される項目です。

★⁴ Bluetooth機能搭載バージョン限定

6 各種機能の設定(SETモード)

■設定項目一覧

◇共通

項目	内容	選択肢/設定範囲	初期値	
ノイズキャンセラー	ノイズキャンセラー機能 (本体/イヤホンマイク/ヘッドセット共通)	無効、有効	有効	
PTTロック	[PTT]による送信を禁止	無効、有効	無効	
操作禁止	電源/音量ツマミ以外の操作をすべて無効にする機能	無効、有効	無効	
サブPTTキー★ ⁵	短押し 長押し	[サブPTT] 短く押したときの動作 長く(約1秒)押したときの動作	無効、ワンタッチ、ユーザーコード、メッセージ、モニター ※モニター機能を設定できるのは、[長押し]だけです。	
サイド1キー	短押し 長押し	[サイド1] 短く押したときの動作 長く(約1秒)押したときの動作		
サイド2キー	短押し 長押し	[サイド2] 短く押したときの動作 長く(約1秒)押したときの動作		
キーロック時の音量操作	ロック機能動作中の音量調整	無効、有効		有効
バックライト	操作時のバックライト機能	常時点灯、常時消灯、操作時点灯		操作時点灯
バックライト輝度	表示部のバックライト明るさ(輝度)	明るい、暗い		明るい
LCDコントラスト	表示部のコントラスト(濃淡)	1～16	8	
Bluetooth★ ⁴	Bluetooth機能対応の別売品とペアリングするための設定	無効、有効	無効	
Bluetooth自動接続★ ⁴ ★ ⁶	Bluetooth機能の自動接続を設定する	無効、有効	有効	
Bluetoothボリューム連動★ ⁴ ★ ⁶	Bluetooth接続時に使用する音量設定(ボリューム連動機能) ※「有効」にすると、Bluetooth接続している無線機本体側の電源/音量ツマミでも音量を調整できます。	無効、有効	無効	
Bluetooth接続方式★ ⁴ ★ ⁶	BluetoothヘッドセットとのSCO (Synchronous Connection-Oriented) リンクの自動切断機能 ※「自動切断」にすると、Bluetoothヘッドセットの音声入出力がない状態が約2秒つづいたとき、ヘッドセットとのSCOリンクを自動で切断します。 ※「自動切断」にすると、VOX機能は使用できません。 ※SCOリンクは、音声通信用のBluetoothリンクです。	常時接続、自動切断	常時接続	

★⁴ Bluetooth機能搭載バージョン限定

★⁵ デュアルモード時は、設定に関係なくサブ側を送信するPTT動作になります。

★⁶ Bluetooth機能を設定すると表示される項目です。

6 各種機能の設定(SETモード)

■ 設定項目一覧

◇ 共通

項目	内容	選択肢/設定範囲	初期値
Bluetoothマイク経路スイッチ★4★6	Bluetooth機能対応の別売品を接続しているときの、使用するマイクロホンの設定 ※「自動」にすると、[PTT]を押したBluetoothヘッドセット、またはマイクロホンの音声を送信します。	自動、Bluetoothマイク、無線機マイク	自動
Bluetooth AF出力★4★6	Bluetooth機能対応の別売品を接続しているときの、無線機本体からの音声出力設定	Bluetooth、無線機本体&Bluetooth	Bluetooth
Bluetoothマイクゲイン★4	Bluetooth接続時のマイクロホンの感度	-12dB(低)~12dB(高) (4dB刻み)	0dB
Bluetoothエコーキャンセラー★4★6	Bluetooth接続時に使用するエコーキャンセラー機能	無効、有効	有効
Bluetoothエコーキャンセラー入力ゲイン★4★6	Bluetooth接続時に使用するエコーキャンセラーの入力ゲイン	-40dB~40dB	0dB
Bluetoothエコーキャンセラー音声遅延★4★6	Bluetooth接続時に使用するエコーキャンセラーの音声遅延	0ミリ秒~160ミリ秒	70ミリ秒
Bluetoothノイズキャンセラー★4★6	Bluetooth接続時に使用するノイズキャンセラー機能	無効、有効	有効
Bluetoothパワーセーブ★4★6	Bluetooth接続時のパワーセーブ機能 ※「有効」にすると、通話がない状態が2分つづいたときに、パワーセーブが動作します。 ◎着信があると、自動的にパワーセーブを解除し、受信音出力されます。 ◎送信するときは、1度[PTT]を押してはなすと、「ブツ」と音がしてパワーセーブが解除されます。 パワーセーブ解除後に、再度[PTT]を押すと送信できます。	無効、有効	無効
BluetoothワンタッチPTT★4★6	Bluetooth接続時のワンタッチPTT機能 ※「有効」にすると、Bluetoothマイクロホンの[PTT]を押しつづける必要がなくなります。	無効、有効	無効
BluetoothワンタッチPTT表示★4★6	[FUNC]によるワンタッチPTT機能設定 ※「有効」にすると、[FUNC]でワンタッチPTT機能を切り替えられます。	無効、有効	無効
BluetoothPTTビーブ★4★6	Bluetooth接続時のPTTビーブ機能 ※「有効」にすると、Bluetoothマイクロホンの[PTT]を押したときにビーブ音(ピパ)が鳴ります。	無効、有効	無効
Bluetooth機器検索★4★6	Bluetooth機能対応機器の検索	検索	—
Bluetooth機器削除★4★6	ペアリング済み機器を削除する	—	機器なし
Bluetooth初期化★4★6	ペアリング済み機器をすべて削除する	—、消去	---
Bluetoothユニットバージョン★4	Bluetoothユニットのバージョン表示	—	—
リセット	初期化(初期値に戻す) ※Bluetoothペアリングリストを除く	中止、実行	中止

★4 Bluetooth機能搭載バージョン限定

★6 Bluetooth機能を設定すると表示される項目です。

6 各種機能の設定(SETモード)

■設定項目一覧

◇LTE


項目	内容	選択肢/設定範囲	初期値
接続通知	個別呼出に成功したときの通知音(ピッ) ※「無効」にしている場合でも本製品の画面で結果を確認できます。	無効、有効	有効
失敗通知	個別呼出に失敗したときの通知音(ブーッ) ※「無効」にしている場合でも本製品の画面で結果を確認できます。	無効、有効	有効
送信開始通知音	(個別) (グループ) (全体) (電話)	送信開始時の通知音 無効、通知音1～通知音8 ※数字が大きいほど、低い音になります。	通知音1 (ピッ)
受信終了通知音	(個別) (グループ) (全体) (電話)	音声受信終了時の通知音 無効、通知音1～通知音8 ※数字が大きいほど、低い音になります。	通知音1 (ピッ)
受信通知音	(個別) (グループ) (全体) (電話) (メッセージ)	着信時、または受信時の通知音 無効、通知音1～通知音8 ※数字が大きいほど、低い音になります。	無効
受信通知方式	(個別) (グループ) (全体) (電話)	着信時の呼出方式 ポケットビープ、Pベル	Pベル
受信通知回数	(個別) (グループ) (全体) (電話) (メッセージ)	通知音の鳴動回数 連続、1、3、10、20(回)	3回
受信通知動作	着信時やメッセージ受信時の通知動作	通知音、バイブレーション、通知音+バイブレーション	通知音
通信圏外通知音	圏外などで通信できなくなった、または圏内に戻り通信できる状態になったときの通知音(圏外時：ピッ/圏内時：ポポッ)	無効、有効	無効
圏外時側音停止	側音利用時、送信中に圏外になった場合に側音を停止してお知らせする機能	無効、有効	無効
側音	ヘッドセット(別売品)接続時の側音機能 ※「有効」にすると、ヘッドセットから自分の音声が聞こえるようになり、話しやすくなります。 側音機能が「有効」の場合、エコーキャンセラー機能が「無効」になります。	無効、有効	無効
側音音量★7	側音機能を使用するときの音量	0～32	10

★7 側音機能を設定すると表示される項目です。

6 各種機能の設定(SETモード)

■設定項目一覧

◇LTE

項目	内容	選択肢/設定範囲	初期値
エコーキャンセラー	エコーキャンセラー機能 (イヤホンマイク/ヘッドセット共通) ※側音機能が「有効」の場合、設定を変更できません。	無効、有効	有効
ジッターバッファ	パケットの揺らぎによる音声途切れを軽減するために使用するジッターバッファ	ダイナミック、40ミリ秒～480ミリ秒(40ミリ秒刻み)	ダイナミック
送信禁止	[PTT]による送信を禁止する機能	無効、有効	無効
待受画面での呼出	待受画面に、呼び出す相手局(呼出種別)を表示する設定	無効、有効	有効
ワンタッチPTT	[PTT]を短く押すごとに送信と受信を切り替える機能 ※「有効」にすると、機能を割り当てたキーを押したときに「ワンタッチPTT」が表示されます。 「ON」にすると、送信するときに、[PTT]を押しつづける必要がなくなります。	無効、有効	無効
相手局の表示切替	送信や操作後など、待受画面に戻ったときに、表示する相手局(呼出種別)の設定  相手局(呼出種別)表示 ※「無効」にすると、呼出先設定としてお買い上げの販売店で設定された相手局(呼出種別)になります。	無効、送信操作(最後に送信した相手局)、送受信操作(最後に送信、または受信した相手局)、全操作(最後に送信、または受信した相手局か、アドレス帳/履歴で表示した相手局)	無効
SIM切替表示	[FUNC]によるSIM切替 ※「有効」にすると、[FUNC]でSIMカードを切り替えられます。(P.2-16)	無効、有効	無効
SIM切替	使用するSIMカードの切り替え(P.2-15)	--- (SIM1) ^{★8} 、切替 (SIM2) ^{★8}	--- (SIM1)
LTEユニットバージョン	通信ユニットのバージョン表示	—	—
IMEI	通信ユニットのIMEI番号表示	—	—
電話番号 ^{★9}	SIMカードの電話番号表示	—	—
ICCID ^{★9}	SIMカードのICCID表示	—	—

※LTEユニットバージョンやICCIDなどの取得には時間がかかるため、SETモードになった直後では、「未取得」と表示されます。

しばらくしてから、設定項目を切り替えると、取得した値が表示されます。

※ご使用になるSIMカードにより、電話番号が「未取得」と表示されることがあります。

★8 お買い上げの販売店で、各SIMスロットに名前が設定されている場合は、その内容が表示されます。

★9 SIM切替で選択しているSIMスロット側の情報が表示されます。

6 各種機能の設定(SETモード)

■ 設定項目一覧

◇ SR

項目	内容	選択肢/設定範囲	初期値
送信開始通知音	送信したとき、送信側の無線機が通話できる状態であることを知らせる通知音の設定	無効、有効	無効
終話信号受信	相手が終話したことを通知するピープ音の設定	無効、有効	無効
ユーザーコード設定(受信)	メモリーチャンネル共通のユーザーコードを使用するか、メモリーチャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかの設定	チャンネル毎、チャンネル共通	チャンネル共通
ユーザーコード設定(送信)			
秘話(CH)	秘話機能を使用するチャンネルを設定	デジタルモードのメモリーチャンネル	有効なチャンネルのうち、最も小さい番号のチャンネル
秘話(鍵番号)	秘話機能で通話する相手の無線機と同じ秘話コードを設定	OFF、01～63★ ¹⁰	OFF
送信出力切替	送信出力を設定	High、Low、チャンネル毎	High
ノイズスケルチレベル	スケルチレベルを表示	無効、有効	無効
全体表示	[アドレス帳]を押したときの表示について設定	無効、有効	有効
グループ番号表示			
個別番号表示			
ユーザーコード表示			

★10 選択肢の設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

6 各種機能の設定(SETモード)

■設定項目一覧

◇デュアル

項目	内容	選択肢/設定範囲	初期値
送信開始通知音(LTE)	LTEモードの送信開始通知音を設定する	無効、通知音1～通知音8	通知音1 (ピッ)
送信開始通知音(SR)	SRモードの送信開始通知音を設定する	無効、通知音1～通知音8	通知音1 (ピッ)
受信終了通知音(LTE)	LTEモードの受信終了通知音を設定する	無効、通知音1～通知音8	通知音1 (ピッ)
受信終了通知音(SR)	SRモードの受信終了通知音を設定する	無効、通知音1～通知音8	通知音1 (ピッ)
受信通知音(LTE)	LTEモードの受信通知音を設定する	無効、通知音1～通知音8	無効
受信通知音(SR)	SRモードの受信通知音を設定する	無効、通知音1～通知音8	無効
受信通知回数(LTE)	LTEモードの受信通知回数を設定する	連続、1回、3回、10回、20回	3回
受信通知回数(SR)	SRモードの受信通知回数を設定する	連続、1回、3回、10回、20回	3回
受信通知動作	着信時やメッセージ受信時の通知動作を設定する	通知音、バイブレーション、通知音+バイブレーション	通知音
メイン/サブ切替	[FUNC]によるメイン/サブ切り替え機能	無効、有効	有効

■ 別売品一覧	7-2
■ BC-227(急速充電器)で充電するには	7-3
■ BC-226(急速充電器)で充電するには	7-4
◇ 連結充電をするときは	7-4
■ BC-214N(6連急速充電器)で充電するには	7-5
■ バッテリーパック使用時の運用時間と充電時間の目安	7-6
■ BP-305(アルカリ乾電池ケース)	7-7
◇ アルカリ乾電池の入れかた	7-7
◇ 正しくご使用いただくために	7-7
■ アルカリ乾電池ケース使用時の運用時間	7-8
■ LC-195(BP-302/BP-303用ハードケース)	7-9
■ LC-198(BP-303用ハードケース)	7-10
■ HM-238MC(サブチャンネルPTT機能対応タイプピン型マイクロホン)	7-11
■ HM-222H/HM-250(防水スピーカーマイクロホン)	7-12
◇ ベルトクリップについて	7-13

7 別売品とその使いかた

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧

弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> でも、別売品についてご覧いただけます。

バッテリー関係

- BP-302 : リチウムイオンバッテリーパック
(Min: 1950mAh, Typ: 2010mAh)
- BP-303 : リチウムイオンバッテリーパック
(Min: 3200mAh, Typ: 3350mAh)
※付属品と同一
- BP-305 : アルカリ乾電池ケース

充電する

- BC-226 : 急速充電器(最大6台まで連結可能)
- BC-227 : 急速充電器(BC-123S付属)
- BC-228 : ACアダプター(BC-226用の電源)
- BC-123S : ACアダプター
(スリム型/BC-227用の電源)
- BC-242 : ACアダプター
(プラグ脱着式/BC-227用の電源)
- CP-23L : シガレットライターケーブル
(BC-227用)
- BC-214N : 6連急速充電器
(BC-157S付属、AD-140組み込み済み)
※電源には、付属品のBC-157S、または別売品のOPC-656が必要です。

腰にかける

- MB-133 : ベルトクリップ
※付属品と同一

マイクロホン/ヘッドセット関係

- HM-163MC^{★1} : タイピンマイクロホン
(ジャック: ϕ 2.5mm)
- HM-222H^{★2} : 防水スピーカーマイクロホン
(ジャック: ϕ 3.5mm)
※IP68の防塵/防水性能があります。
- VS-3^{★3} : Bluetooth[®] ヘッドセット
- HM-238MC^{★1} : サブチャンネルPTT機能対応タイプ
ン型マイクロホン
(ジャック: ϕ 2.5mm)
- HM-250^{★2} : サブチャンネルPTT機能対応スピー
カーマイクロホン
(ジャック: ϕ 3.5mm)
※IP67の防塵/防水性能があります。
- MBB-7 : HM-250用金属ベルトクリップ

イヤホン関係

- EH-15B^{★4} : イヤホン(プラグ: ϕ 2.5mm)
- SP-16B^{★5} : 耳かけ型イヤホン(プラグ: ϕ 3.5mm)
※ケーブル長: 約50cm
- SP-16BW^{★5} : 耳かけ型イヤホン(プラグ: ϕ 3.5mm)
※ケーブル長: 約1m
- SP-26^{★4} : チューブイヤホン(プラグ: ϕ 2.5mm)
- SP-27^{★5} : チューブイヤホン(プラグ: ϕ 3.5mm)
- SP-28^{★4} : 耳かけ型イヤホン(プラグ: ϕ 2.5mm)
- SP-29^{★5} : 耳かけ型イヤホン(プラグ: ϕ 3.5mm)
- SP-40^{★5} : イヤホン(プラグ: ϕ 3.5mm)

アンテナ関係

- UHF帯
- FA-S57US : 短縮型アンテナ(約7cm)
- FA-S73U : 短縮型アンテナ(約5cm)
- FA-S77U : アンテナ(約20cm)
- FA-S78U : アンテナ(約19cm)
- FA-S79U : アンテナ(約17cm)
- VHF帯
- FA-S68V : アンテナ(約16cm)

無線機を保護する

- LC-195 : ハードケース
- LC-198 : 金属クリップ付きレザーケース

肩にかける

- MB-57L : ショルダーストラップ
※LC-195またはLC-198と組み合わせてお使いいただけます。

その他

- AD-135 : イヤホンジャックアダプター
(ジャック: ϕ 3.5mm)

- ★1 EH-15B、SP-26、SP-28のいずれかと組み合わせてご使用になれます。
- ★2 SP-16B、SP-16BW、SP-27、SP-29、SP-40のいずれかと組み合わせてご使用になれます。
- ★3 Bluetooth機能搭載バージョンに接続してお使いになれます。
- ★4 HM-163MC、HM-238MCのいずれかと組み合わせてお使いになれます。
- ★5 HM-222H、AD-135のいずれかと組み合わせてお使いになれます。

■ BC-227(急速充電器)で充電するには

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で充電できます。

⚠危険

弊社指定(BP-302/BP-303)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。

◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。

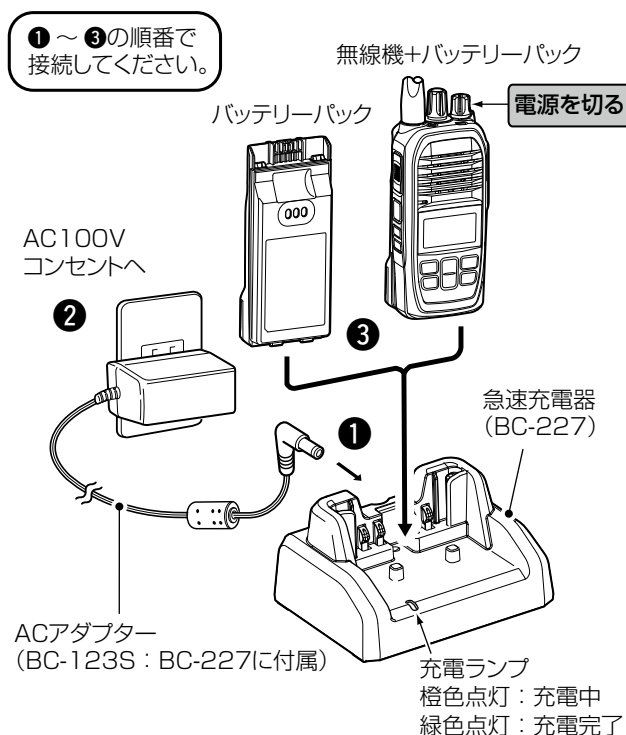
充電が完了すると緑色に点灯します。

※充電エラー時は、充電ランプが橙色と緑色に交互点灯します。右図の接続を確認し、充電しなおしてください。

◎充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下すると、自動的に再充電を開始します。

※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。



7 別売品とその使いかた

■ BC-226(急速充電器)で充電するには

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で充電できます。

△危険

弊社指定(BP-302/BP-303)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。

◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。

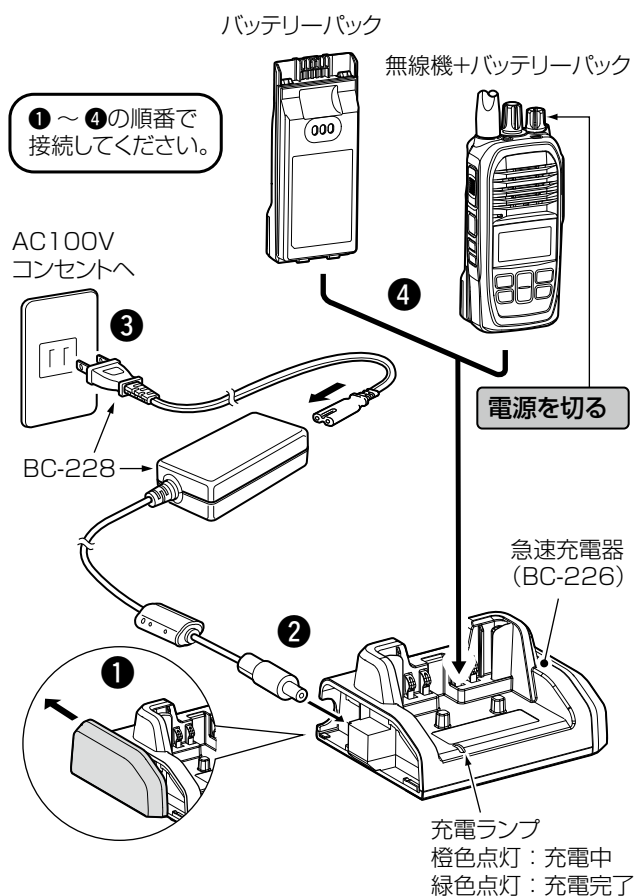
充電が完了すると緑色に点灯します。

※充電エラー時は、充電ランプが橙色と緑色に交互点灯します。右図の接続を確認し、充電しなおしてください。

◎充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下すると、自動的に再充電を開始します。

※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。



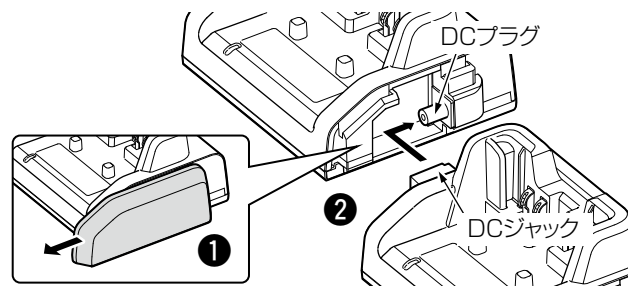
◇ 連結充電をするときは

充電器を最大6台まで連結して、同時に充電できます。

1. 充電器右側面のカバーを取りはずします。(①)
2. 右側面にあるDCプラグと、もう1台の充電器(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。(②)

△警告

BC-226を7台以上連結して充電しないでください。火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。



7 別売品とその使いかた

■ BC-214N(6連急速充電器)で充電するには

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で充電できます。

△危険

弊社指定(BP-302/BP-303)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。

◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。

充電が完了すると緑色に点灯します。

※充電エラー時は、充電ランプが橙色と緑色に交互点灯します。

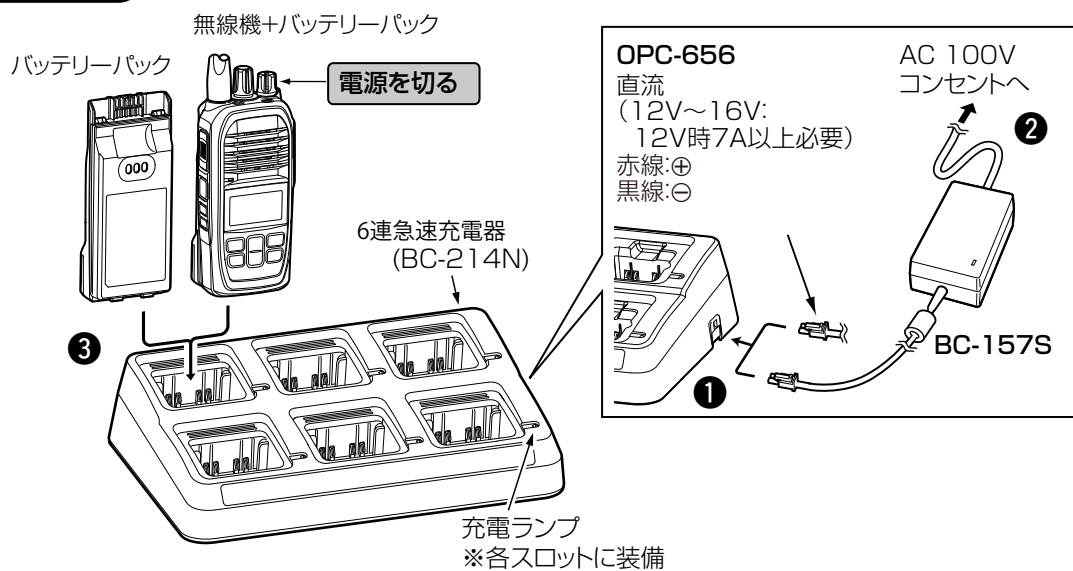
右図の接続を確認し、充電しなおしてください。

◎充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下すると、自動的に再充電を開始します。

※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。

①～③の順番で
接続してください。



7 別売品とその使いかた

■ バッテリーパック使用時の運用時間と充電時間の目安

下記の運用時間や充電時間は目安です。

ご使用になる運用モードやバッテリーパック、充電器によって異なります。

BP-302

電池の種類	リチウムイオン			
電池の容量	1950mAh min.(2010mAh typ.)			
出力電圧	7.2V			
運用時間	LTEモード		約15時間	
	SRモード	送信出力	1W	約9時間
			5W	約7.8時間
充電時間	BC-226使用時		約2.5時間	
	BC-227使用時		約2.6時間	
	BC-214N使用時		約3.0時間	

BP-303

電池の種類	リチウムイオン			
電池の容量	3200mAh min.(3350mAh typ.)			
出力電圧	7.2V			
運用時間	LTEモード		約25時間	
	SRモード	送信出力	1W	約15時間
			5W	約13時間
充電時間	BC-226使用時		約4.2時間	
	BC-227使用時		約4.4時間	
	BC-214N使用時		約5.0時間	

条件：送信5、受信5、待ち受け90の割合で繰り返し

Bluetooth：OFF、バックライト：OFF、パワーセーブ：OFF

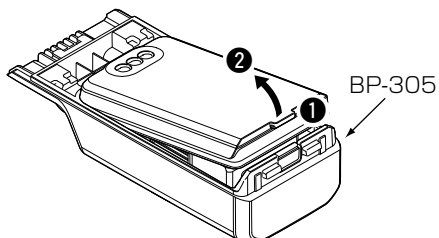
※お買い上げ時にGPS機能が設定されている場合、デュアルモード時、圏外やローミングを繰り返す環境でご使用になる場合、運用時間は短くなります。

※バッテリーパックの残量がない状態で充電した場合の時間です。

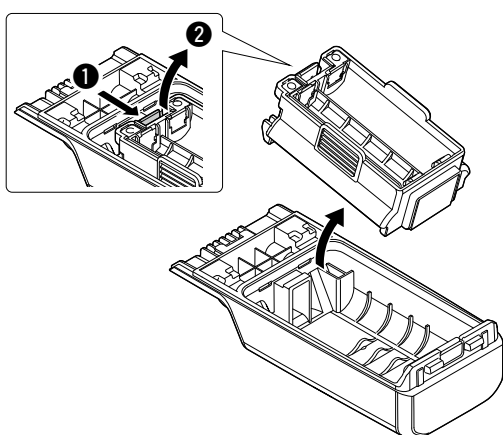
■BP-305(アルカリ乾電池ケース)

◇アルカリ乾電池の入れかた

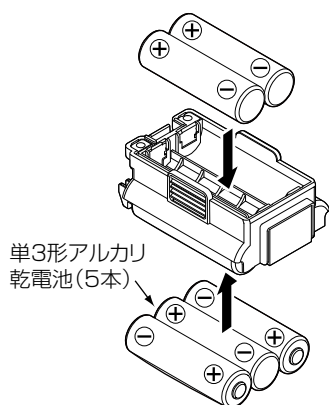
1. ①の部分に指を掛けて、引き上げます。



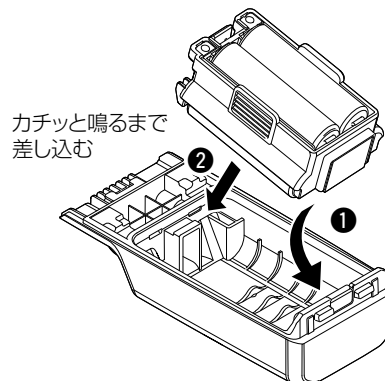
2. ①の部分を指で押しながら、ケースを引き上げて取り出します。



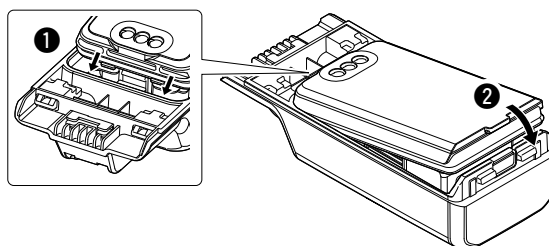
3. 単3形アルカリ乾電池を5本装着します。
※+(プラス側)と-(マイナス側)を間違えないように入ってください。



4. ①の方向から先に入れ、「カチッ」と鳴るまでケースを差し込みます。



5. フタを閉じます。
※ケース外部に防水用パッキンがはみ出さないように注意してください。



◇正しくご使用いただくために

△危険

アルカリ乾電池ケース(BP-305)は、単3形アルカリ乾電池専用です。
マンガン乾電池や単3形の充電式電池は使用しないでください。
破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

△注意

アルカリ乾電池ケースを使用しないときは、アルカリ乾電池ケースからアルカリ乾電池を取りはずして保管してください。

- ◎アルカリ電池ケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電源が切れます。
- ◎アルカリ電池ケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いたやわらかい布などで、電池端子部を定期的にふいてください。
- ◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。
- ◎運用時間の目安は7-8ページの表をご覧ください。

7 別売品とその使いかた

■ アルカリ乾電池ケース使用時の運用時間

下記の運用時間は目安です。

使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、運用時間が大きく異なることがあります。

また、アルカリ乾電池の特性により、低温では運用時間が短くなります。

BP-305

電池の種類		単3形アルカリ乾電池		
運用時間	LTEモード		約8.5時間	
	SRモード	送信出力	1W	約3時間
			5W	約0.5時間

条件：送信5、受信5、待ち受け90の割合で繰り返し

Bluetooth：OFF、バックライト：OFF、パワーセーブ：OFF

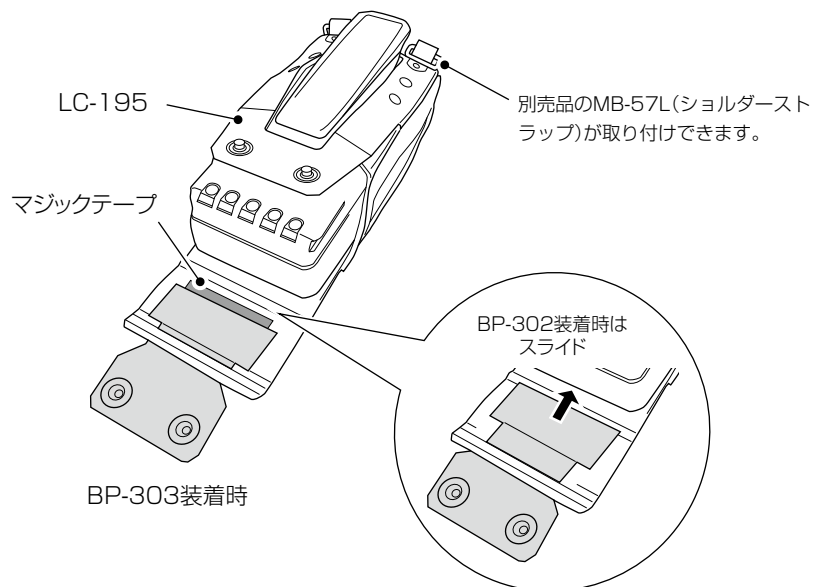
※お買い上げ時にGPS機能が設定されている場合、デュアルモード時、圏外やローミングを繰り返す環境でご使用になる場合、運用時間は短くなります。

※乾電池を使用するときの送信出力を制限することができます。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

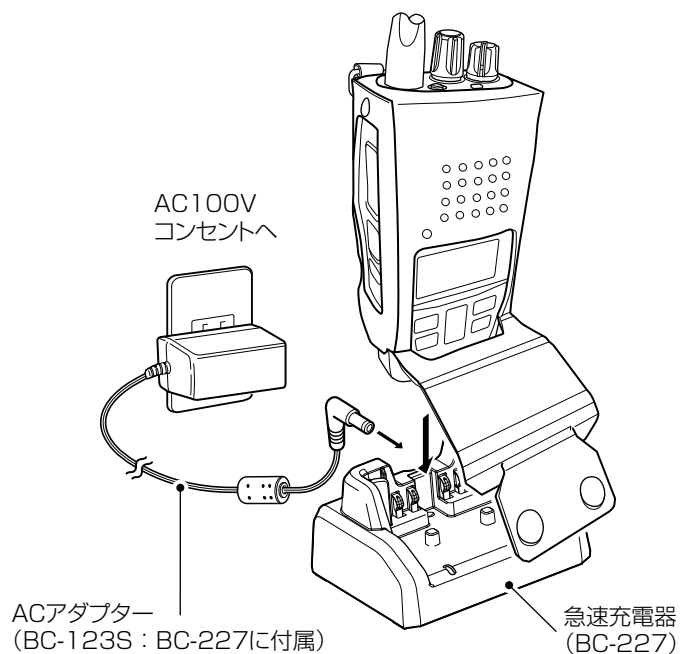
7 別売品とその使いかた

■LC-195(BP-302/BP-303用ハードケース)

無線機本体にバッテリーパックを装着しているときに使用できるハードケースです。
バッテリーパックに応じて、マジックテープで固定する位置を調整してください。



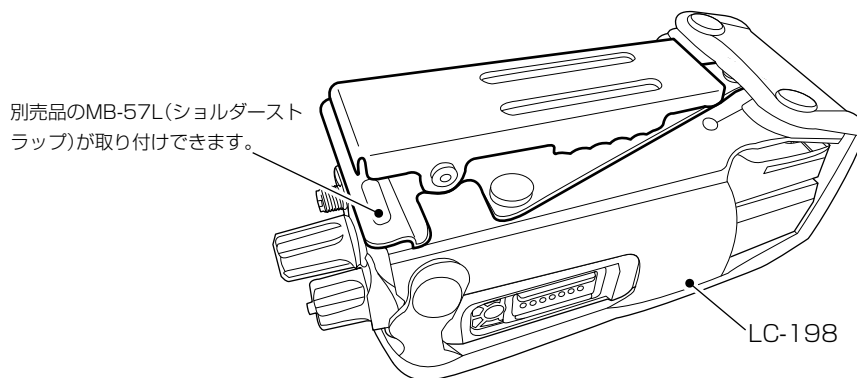
ハードケースを装着した状態で充電するときは、ハードケースの背面にあるボタンをはずし、下図のように取り付けてください。



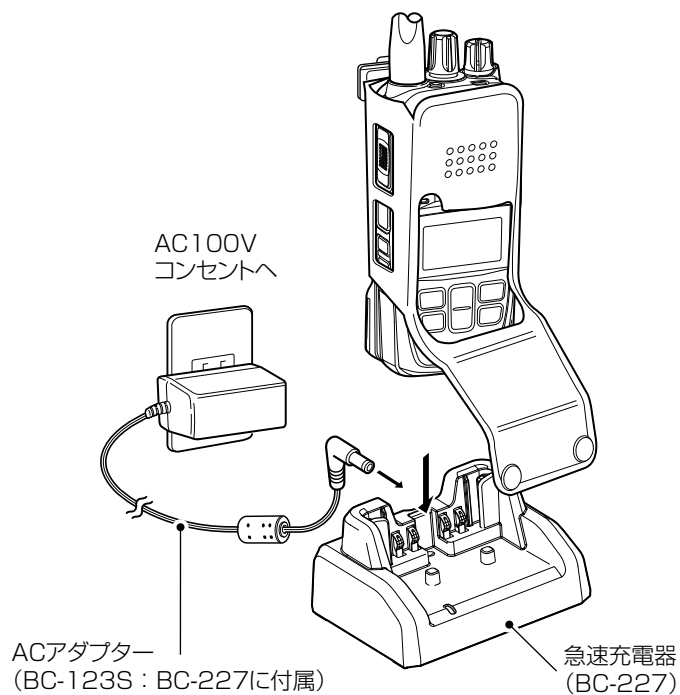
7 別売品とその使いかた

■LC-198(BP-303用ハードケース)

無線機本体にBP-303を装着しているときに使用できる、金属クリップ付きのハードケースです。



ハードケースを装着した状態で充電するときは、ハードケースの背面にあるボタンをはずし、下図のように取り付けてください。



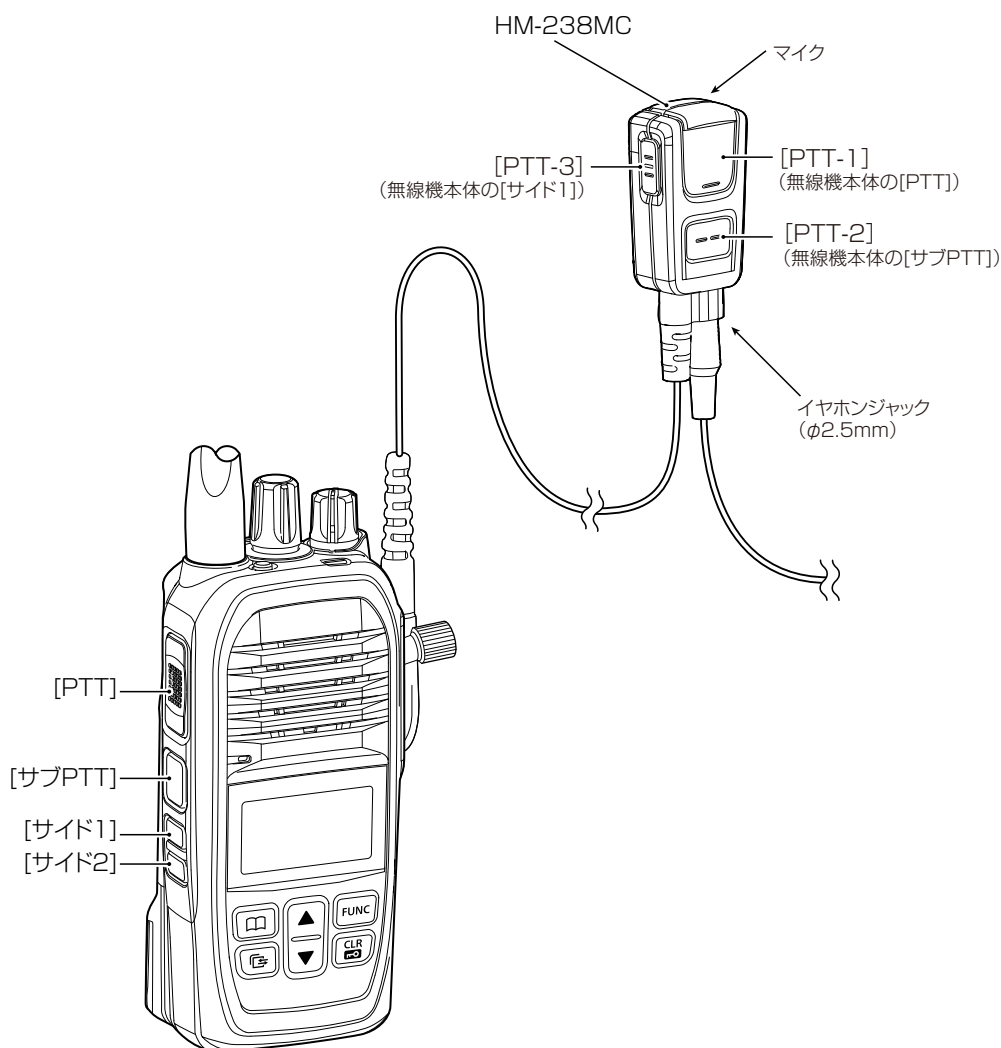
7 別売品とその使いかた

■HM-238MC(サブチャンネルPTT機能対応タイピン型マイクロホン)

無線機本体のキー([PTT]、[サブPTT]、[サイド1])に割り当てられた機能を手元で操作できるタイピン型のマイクロホンです。

ご注意

HM-238MCを無線機に装着すると、無線機本体のスピーカーから音が出なくなります。
必ずHM-238MCにイヤホン(EH-15B、SP-26、SP-28)を接続して、使用してください。



7 別売品とその使いかた

■HM-222H/HM-250(防水スピーカーマイクロホン)

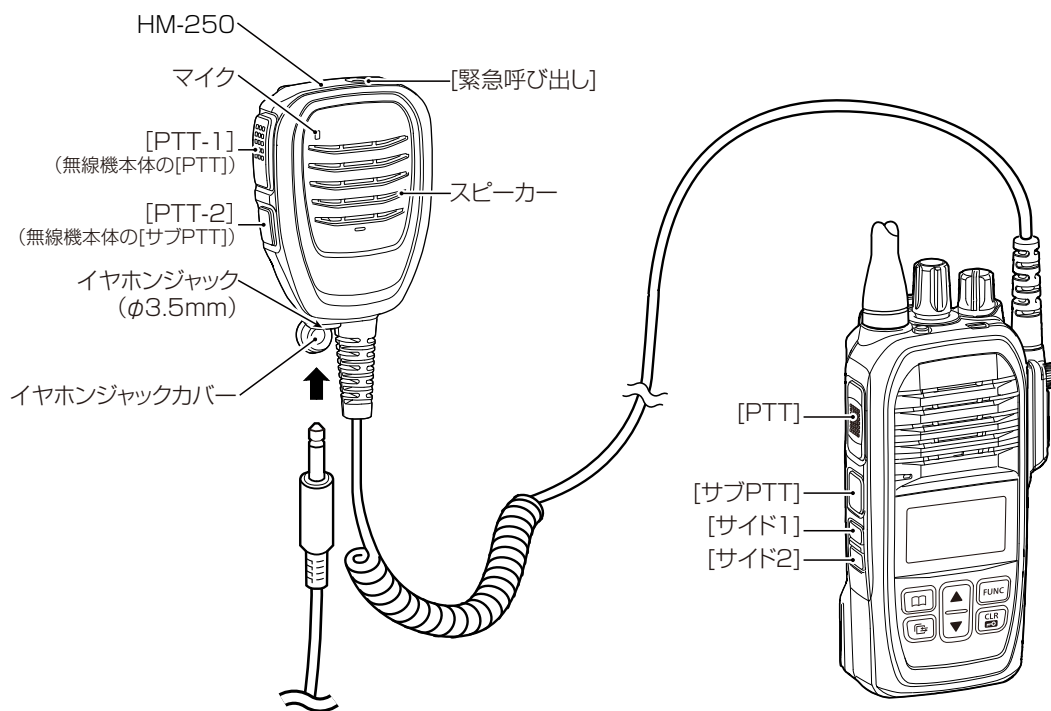
SP-16B、SP-16BW、SP-27、SP-29、SP-40のいずれかと組み合わせてもお使いになれます。

※別売品を組み合わせて使用したときは、防塵/防水機能の低いものに制限されます。

HM-222H：無線機本体の[PTT]と[緊急呼び出し]に割り当てられた機能を手元で操作できます。

HM-250：無線機本体の[PTT]、[サブPTT]、[緊急呼び出し]に割り当てられた機能を手元で操作できます。

MBB-7(HM-250用金属ベルトクリップ)も使用できます。

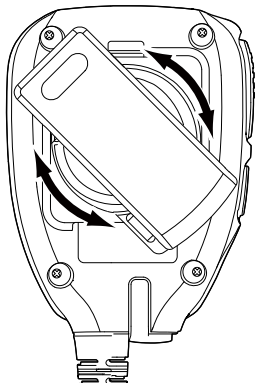


7 別売品とその使いかた

■HM-222H/HM-250(防水スピーカーマイクロホン)

◇ベルトクリップについて

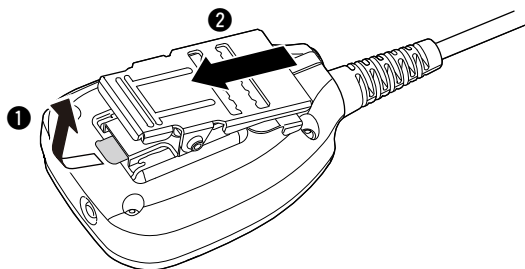
HM-222H/HM-250 に付属のベルトクリップは、45 度ずつ 360 度回転できます。



ベルトクリップの取りはずし

1. レバーを①の方向に押し上げます。
2. そのままベルトクリップを②の方向にスライドさせて取りはずします。

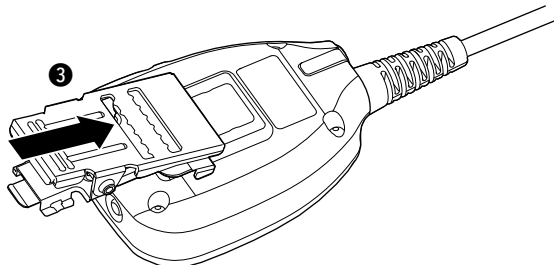
MBB-7を取りはずす場合



ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップを本体に密着させながら矢印の方向 ③ に「カチッ」と音がするまでスライドさせます。

MBB-7を取り付ける場合



■ 故障かな?と思ったら	8-2
■ 弊社製無線機との相互使用	8-3
■ アフターサービスについて	8-4
■ 一般仕様	8-5
■ 送信部	8-5
■ 受信部	8-5
■ Bluetooth [®] 部(Bluetooth機能搭載バージョン限定)	8-5

8 ご参考に

■故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.8-4)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	端子の接触不良	バッテリーパック、またはアルカリ乾電池ケースの端子を清掃する アルカリ乾電池ケースの場合は、乾電池の極性を間違えていないかを確認する	—
	バッテリーパック、または乾電池の消耗	バッテリーパックの場合は充電、乾電池の場合は新しいものに入れ替える	—
	バッテリーパックをご使用の場合、過放電保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P.1-3
通話できない	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P.2-4、 P.3-3
	SRモード時、通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.3-3
	SRモード時、ユーザーコードの設定が正しくない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.3-8
	SRモード時、相手が秘話機能を使用していない、または自分の秘話コードの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話コードを確認する	P.3-6
	アナログモードの個別呼び出し機能が有効時、アンサーバック機能の設定が双方で異なる	設定をお買い上げの販売店に確認する	P.3-3
相手から応答がない	LTEモード時、圏外(点滅)になっている	場所を移動してから通話してみる	—
	LTEモード時、未レジスト(点灯)になっている	再レジストのために、[PTT]を押すしばらく待つ、または場所を移動する LTEの回線契約、開通が完了しているかどうかを確認する	—
	相手局が不在、または電源を切っている	相手局の状態を確認する	—
	SRモード時、相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	—
キーを押すと、「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.5-13
充電が完了しない	無線機の電源が入った状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	
充電中に、充電器のランプが 橙色で点滅、または橙色/緑色 で交互に点滅する	バッテリーパックが正しく差し込まれていない	バッテリーパックを差し込みなおす	P.7-3
	15℃～40℃以外の環境で充電している	15℃～40℃の環境で充電する	—
	各端子(充電端子や電源端子)の接触不良	ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する	—
充電中に、バッテリーパックが 差し込まれているのに充電 ランプが消えた	バッテリーパックが正しく差し込まれていない	バッテリーパックを差し込みなおす	P.7-4
LTEモード時、圏外(点滅)、 または「接続試行中」と表示される	電波が不安定な場所にいる	場所を移動してみる	—
		無線機の電源を入れなおす	P.1-3

8 ご参考に

■ 故障かな?と思ったら

現象	原因	処置	参照
消去した録音内容が残っている	録音内容が無線機本体のメモリーから消去される前に、バッテリーパックを取りはずした	バッテリーパックを交換するときは、「電源OFF…」の表示が消えたことを確認してから、バッテリーパックを取りはずす	P.1-3、 P.5-9
録音データが消えた	録音内容が無線機本体のメモリーに保存される前に、バッテリーパックを取りはずした		
ペアリングできない★	ペアリングモードになっていない	ペアリングモードにする	P.5-2
	周辺にBluetooth対応機器が複数稼働している	ほかのBluetooth対応機器を停止させる ほかのBluetooth対応機器のない場所に移動する	— —
	周辺の無線LAN機器、または電子機器が妨害している	ほかのワイヤレス通信を停止させたり、周辺機器との距離をはなしたりする	—
ペアリングしようとしたら、「これ以上ペアリングできません」が表示された★	登録できる上限に達した状態で、ペアリングしようとした	新たにペアリングしたいときは、SETモードの「Bluetooth機器削除」から不要な機器を削除してから再度ペアリングする	P.6-6
通話が突然切れる/ノイズが入る★	Bluetooth対応機器との距離がはなれている	Bluetooth対応機器との距離を近づける ※本製品との通信距離は約10mですが、周辺環境などによって通信距離が短くなることがあります。	—
	周辺の無線LAN機器、または電子機器が妨害している	ほかのワイヤレス通信を停止させたり、周辺機器との距離をはなしたりする	—
VS-3に接続したイヤホンから音が出ない★	音量が小さくなっている	[VOL](+)ボタンを押して、音量を設定しなおす 無線機の音量設定を上げる(ボリューム連動機能有効時のみ)	— P.6-5
	イヤホンプラグがはずれかけている	イヤホンジャックに正しく差し込む	—

★ Bluetooth機能搭載バージョン限定

■ 弊社製無線機との相互使用

本製品は、IC-DV60Sシリーズ、またはIC-DU60Sシリーズの無線機と相互に使用できます。 (2023年4月現在)

ご注意

- ・アナログモードでは、個別呼び出し機能(2桁仕様)、秘話機能、CDCSS機能が、本製品との通話には使用できません。
※相手先の無線機によっては、本製品の個別呼び出し機能(3桁仕様)、緊急呼び出し機能が使用できないことがあります。
詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- ・デジタルモードのメッセージ通信、緊急呼び出し機能以外のステータス通信、ペアラモード通信は、本製品との通信に使用できません。

■アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P.8-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

電子メール : support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ : <https://www.icom.co.jp/>

■一般仕様

使用温度範囲： -20～+60℃
外形寸法： 61.7(W)×140.5(H)×42.8(D)mm(BP-303装着時)
重量： 約320g(アンテナを除く、BP-303装着時)
電源電圧： DC 7.4V(BP-303使用時)

■送信部

送信出力： +23dBm(LTE)
5W/1W(SR)

■受信部

低周波出力： 1.5W以上(内部スピーカー 8Ω 10%歪時)
1.0W以上(外部スピーカー 8Ω 10%歪時)

■Bluetooth®部(Bluetooth機能搭載バージョン限定)

対応バージョン： Bluetooth標準規格 Ver. 5.3
送信出力： Class 1
対応プロファイル： HFP、HSP
変調方式： GFSK、 $\pi/4$ -DQPSK、8DPSK

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～